

# 家族内観の有効性に関する調査 ~第1報、予備調査の結果~

医療法人耕仁会 札幌太田病院

奥村弓恵、遠田真弓、佐藤昌史、篠田崇次、  
根本忠典、太田健介、太田耕平

# はじめに

- ◆当院では、病棟内内観療法修了後、家族内観療法実施。
- ◆目的：家族関係の回復、絆の強化、健全な家族関係の成長、再発予防など。
- ◆平成19年度：内観療法修了者543例中、152例(28%)に家族内観療法を実施。  
うち99例に対し、予備・予後調査から家族内観療法の有効性について検討した報告をする。

# ・ 当院の家族内観療法の方法

< 患者 >

病棟内内観療法開始

< 家族 >

短期入院で同時内観

外来での通い内観

自宅での記録内観

## 家族内観療法

- ・ 内観で得た気付き(信頼感、感謝の念、報恩・相互扶助など)を伝え合う。
- ・ 手をつなぐ、腕を組み合う、背中を支えあう、などのスキンシップ

以上の過程は感動的で、患者、家族の情動体験は多々見られる。

# 調査方法

## 1.対象

平成19年10月～平成20年3月の間に当院で家族内観療法を修了した99例

## 2.方法

予備調査: 家族内観記録から各項目ごとに分類。  
10代群(29例)には、家族内観修了後の感想レポートより、内容を分類、質的検討を行った

予後調査: 自作の質問紙を用い、電話による聞き取り調査を行った

# 調査方法

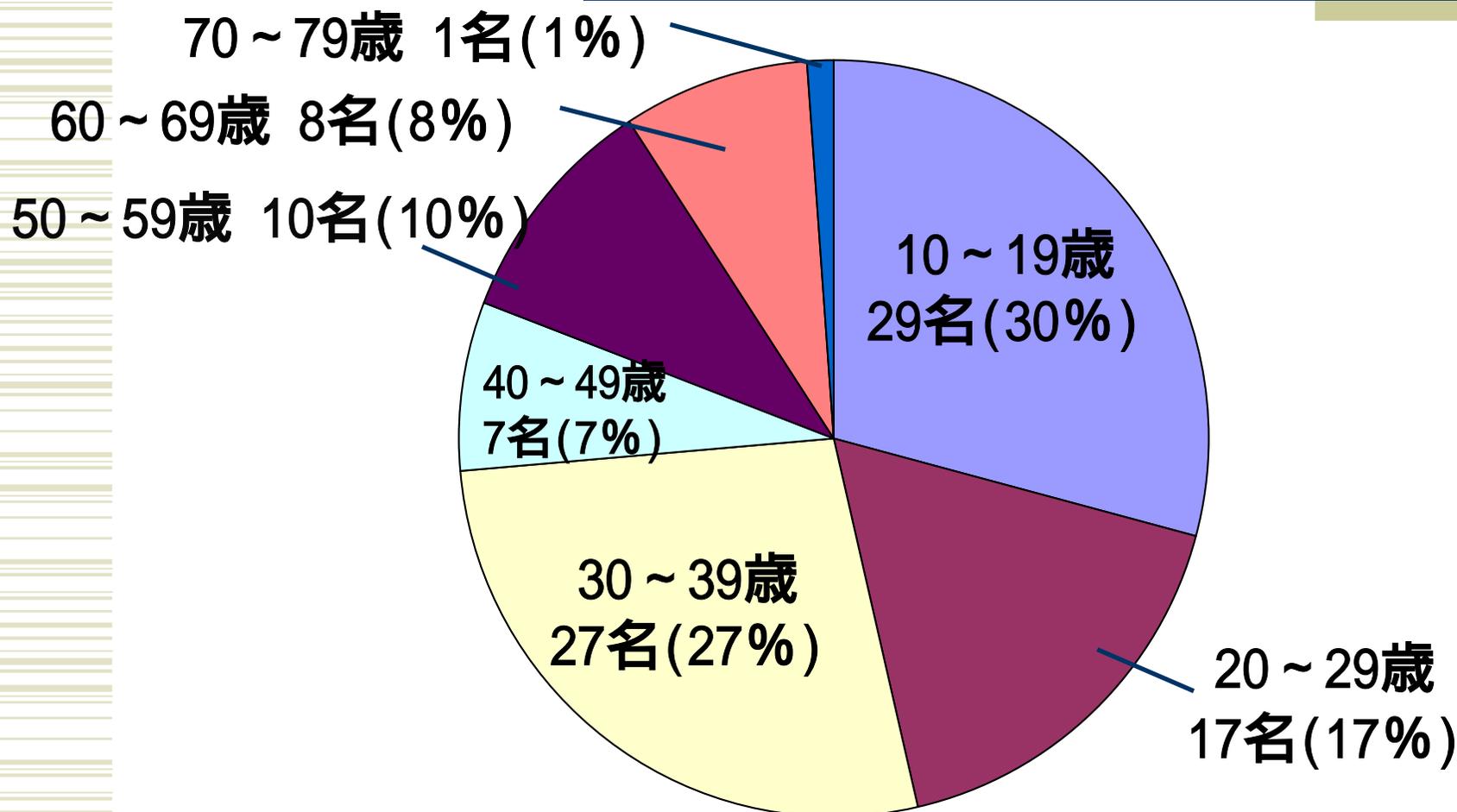
3.調査項目 患者属性、内観方法、場所、参加家族、実施時間、情動体験の有無など

4.分析 家族内観満足度、入院時・退院後の状況を3尺度より数値化し、T検定を実施

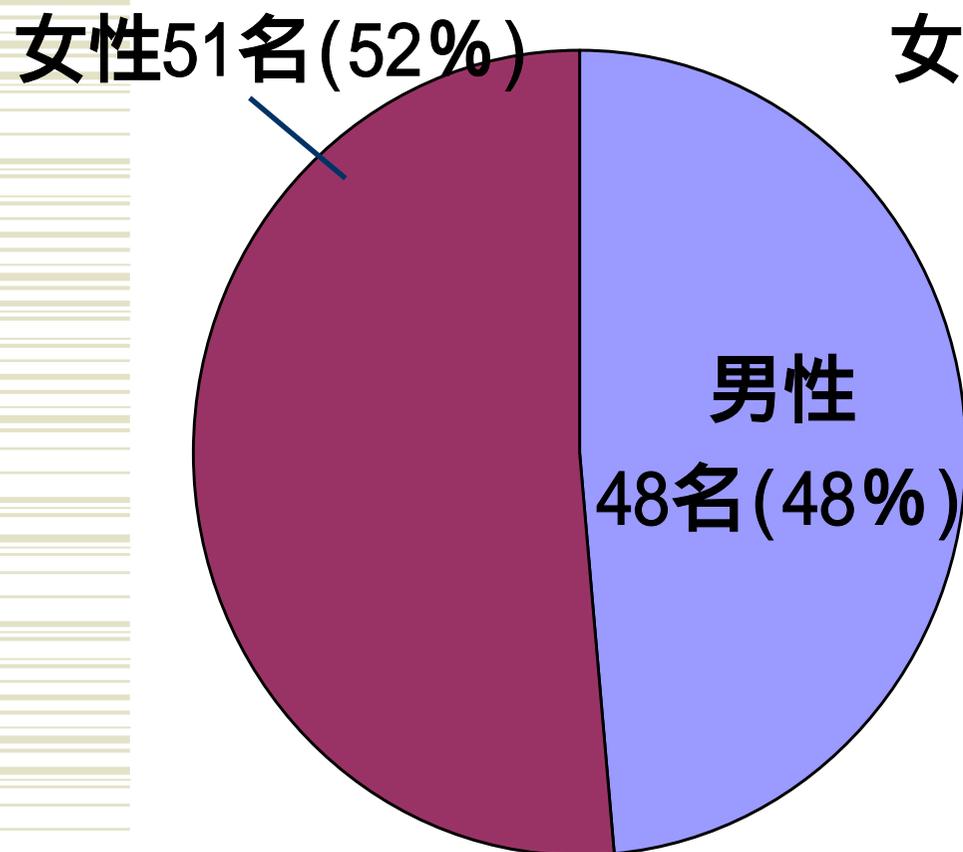
(DSM より、症状と生活状況 **GAF** ・対人関係 **GARF** ・社会的状況 **SOFAS** の3つの尺度を使用)

# 家族内観受療者 年齢別内訳

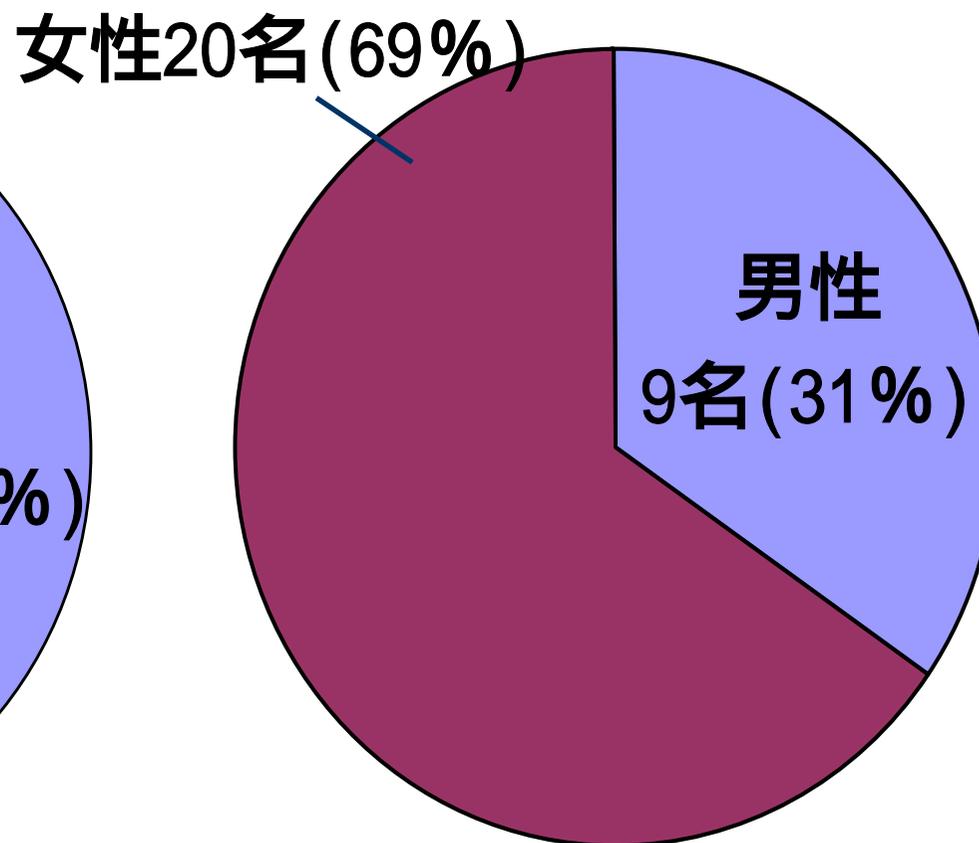
全体群 (N=99)



## 家族内観受療者 性別内訳

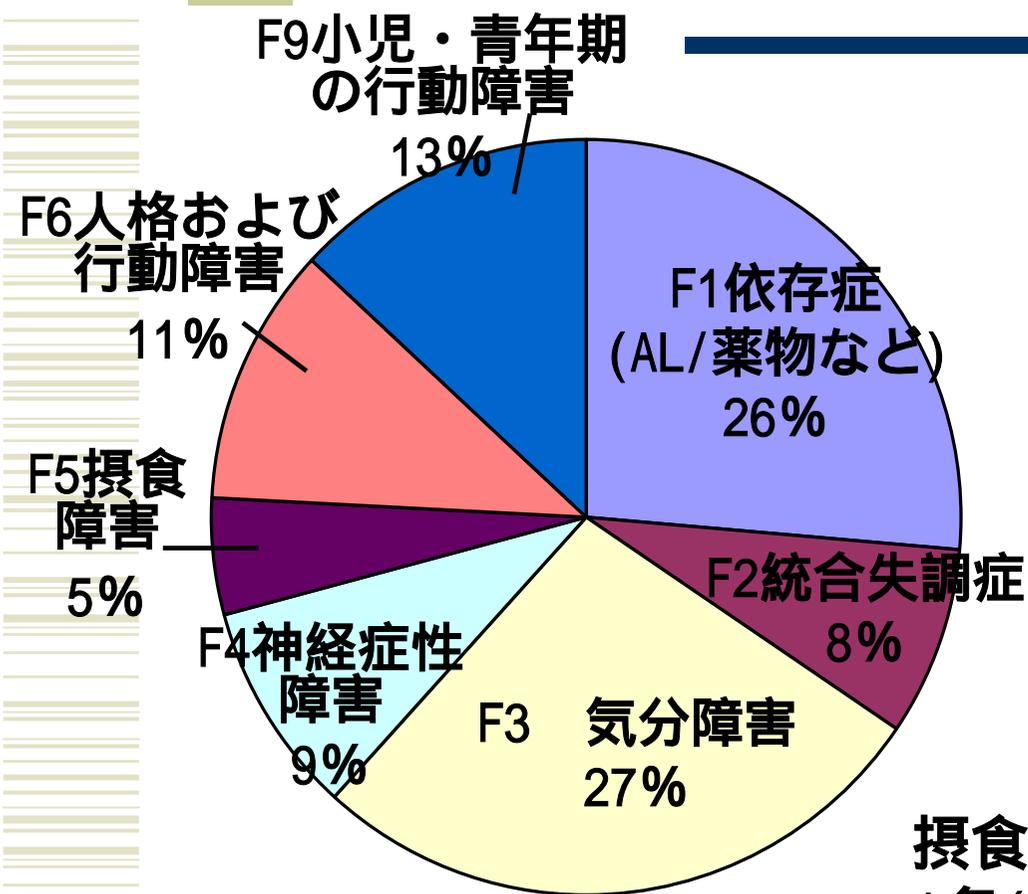


全体群 (N=99)

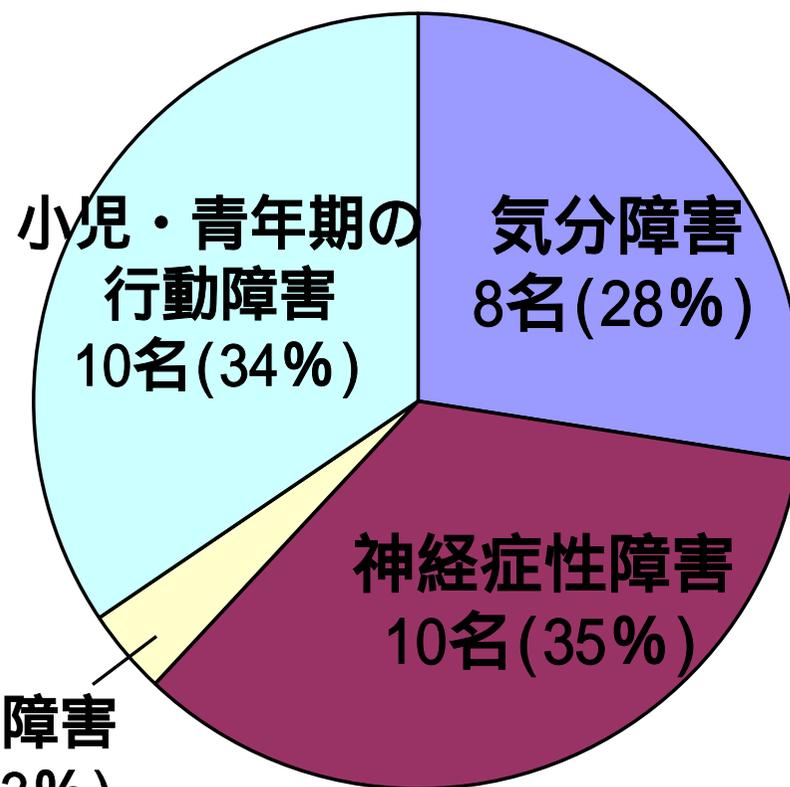


10代群 (N=29)

# 家族内観受療者 疾患別(ICD-10)内訳

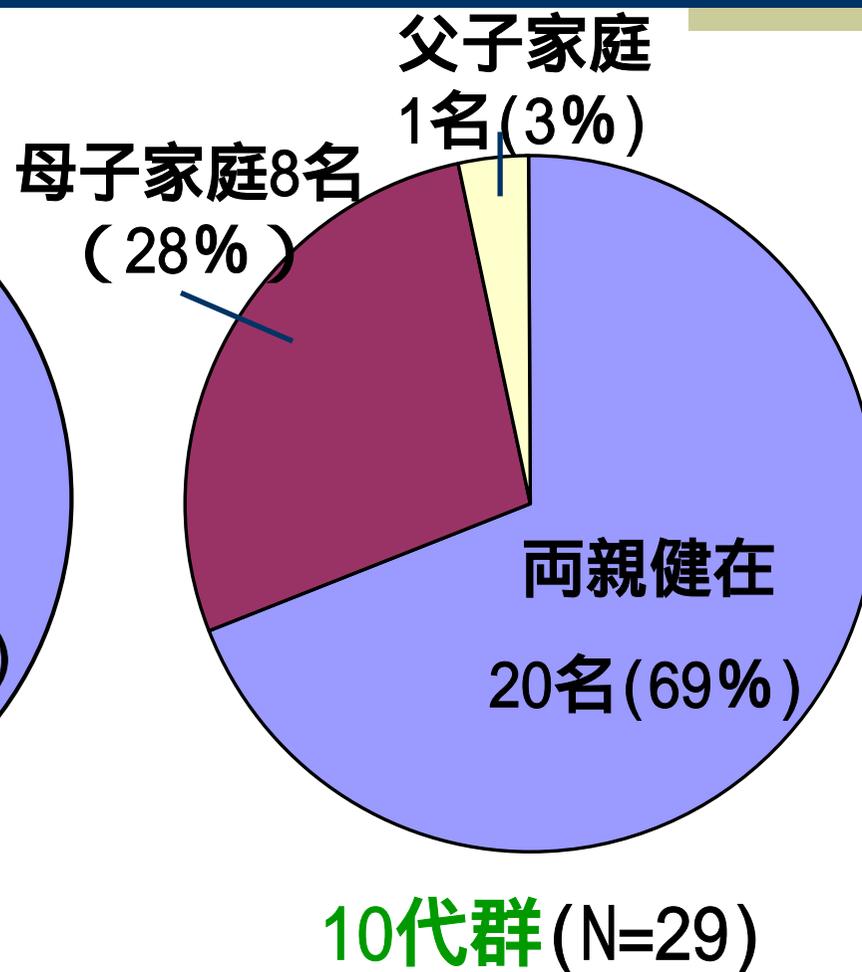
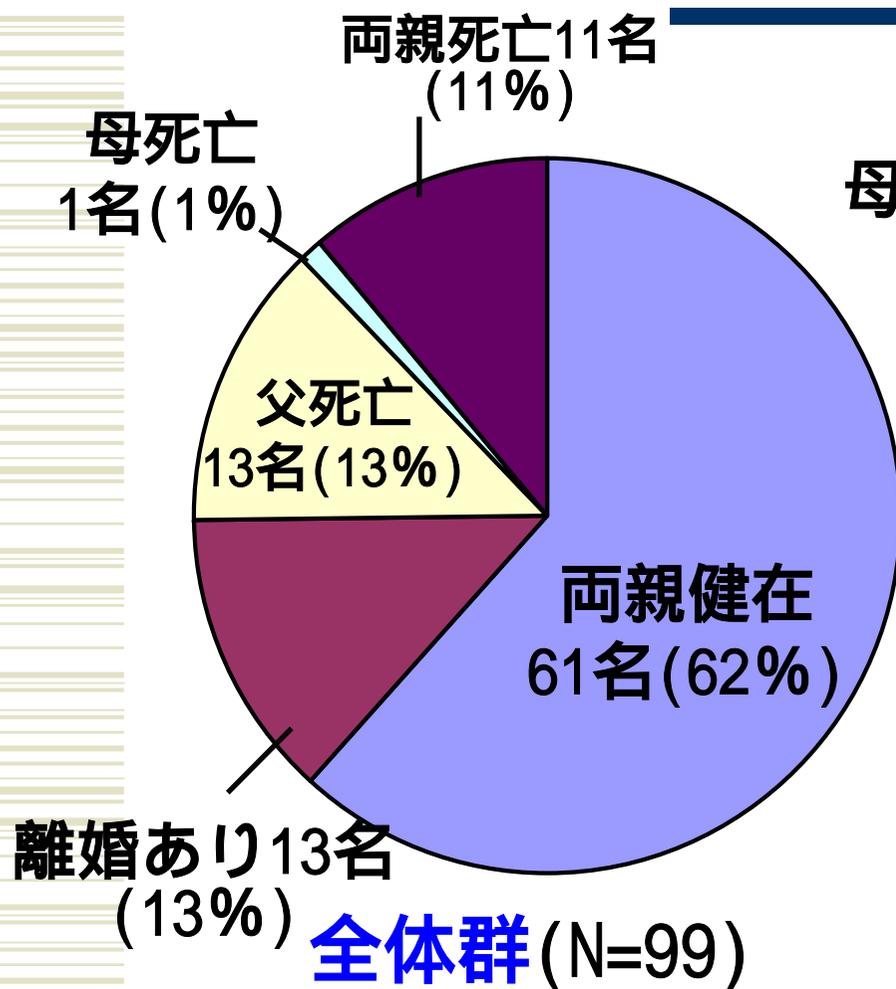


全体群 (N=99)



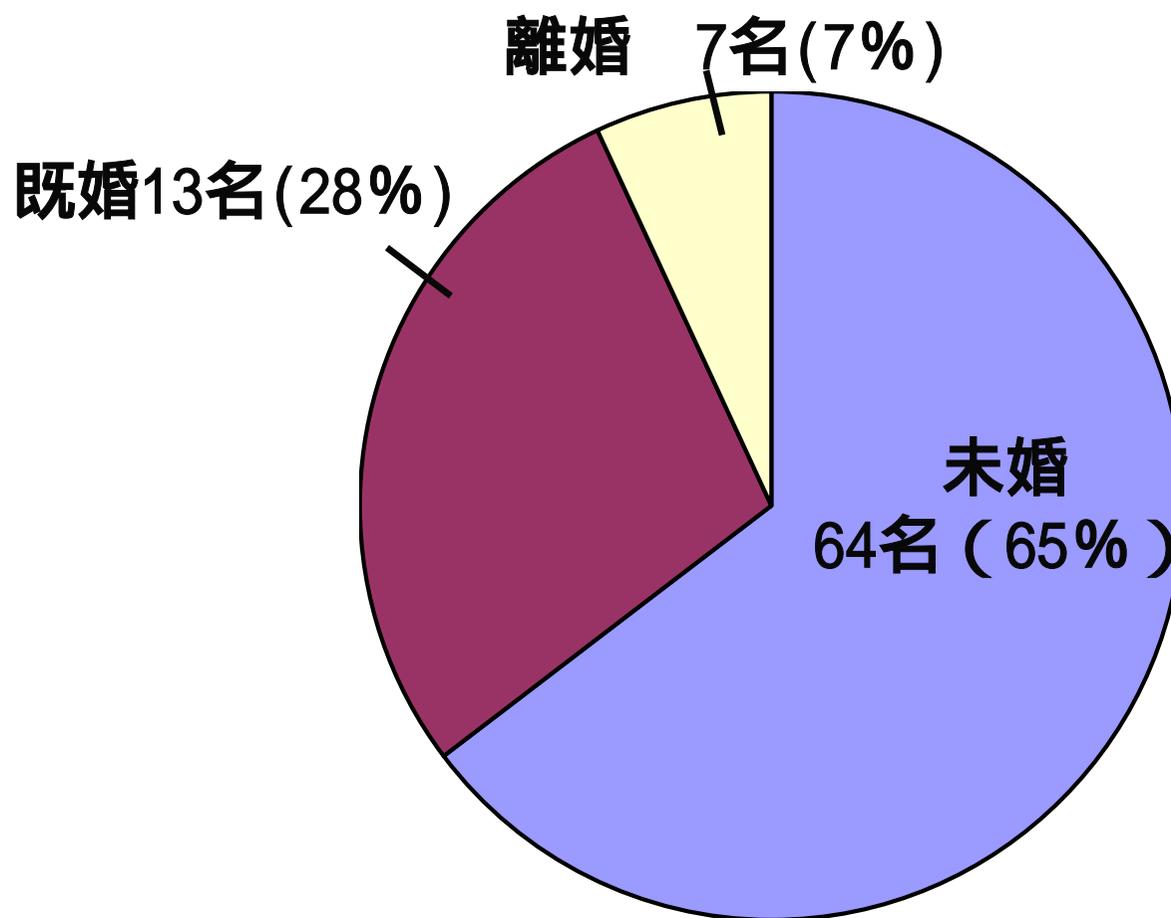
10代群 (N=29)

# 家族内観受療者 家族構成



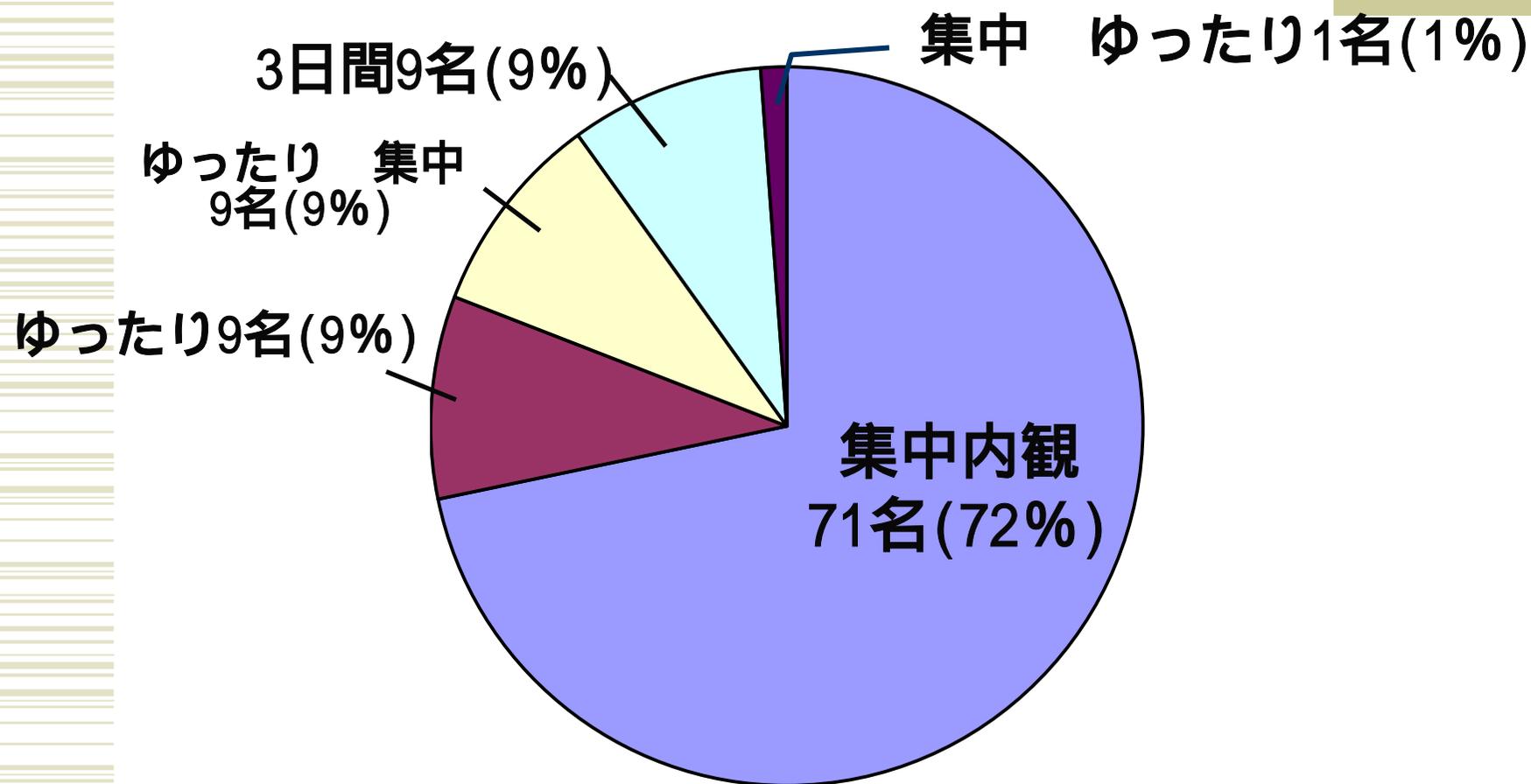
# 家族内観受療者 結婚歴

全体群(N=99)



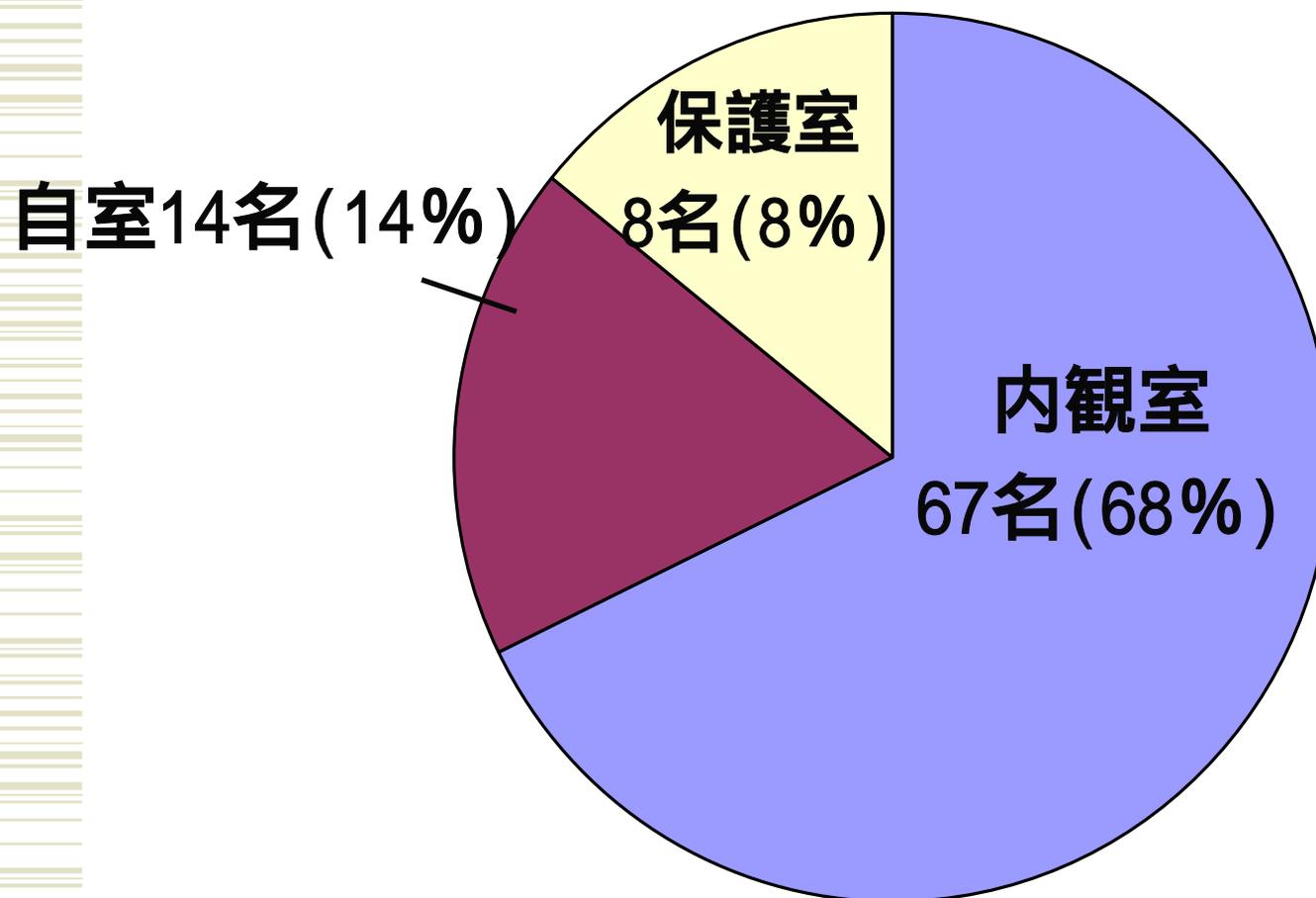
# 病棟内内観療法 実施様式

全体群(N=99)



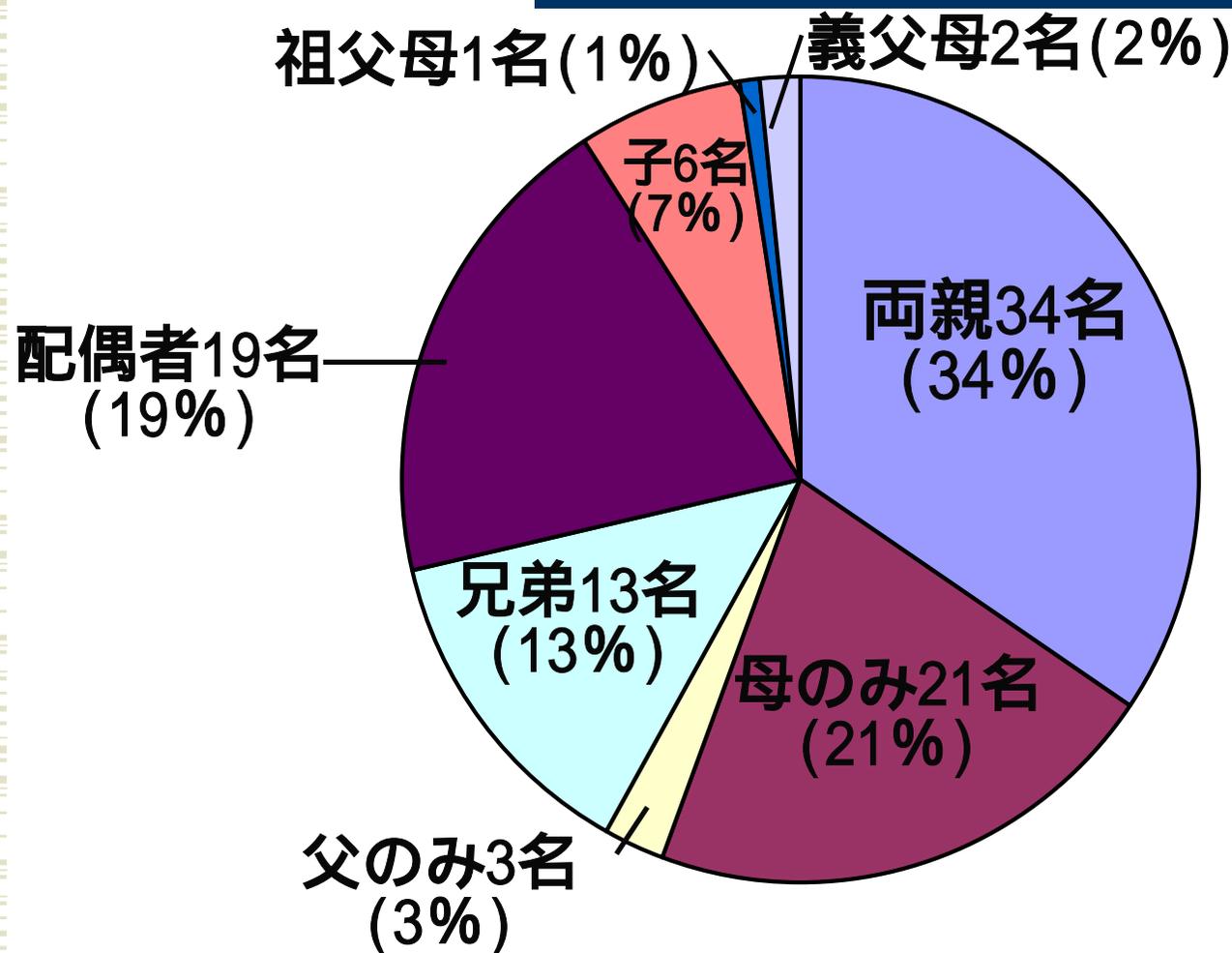
## 病棟内内観療法 実施場所

全体群(N=99)



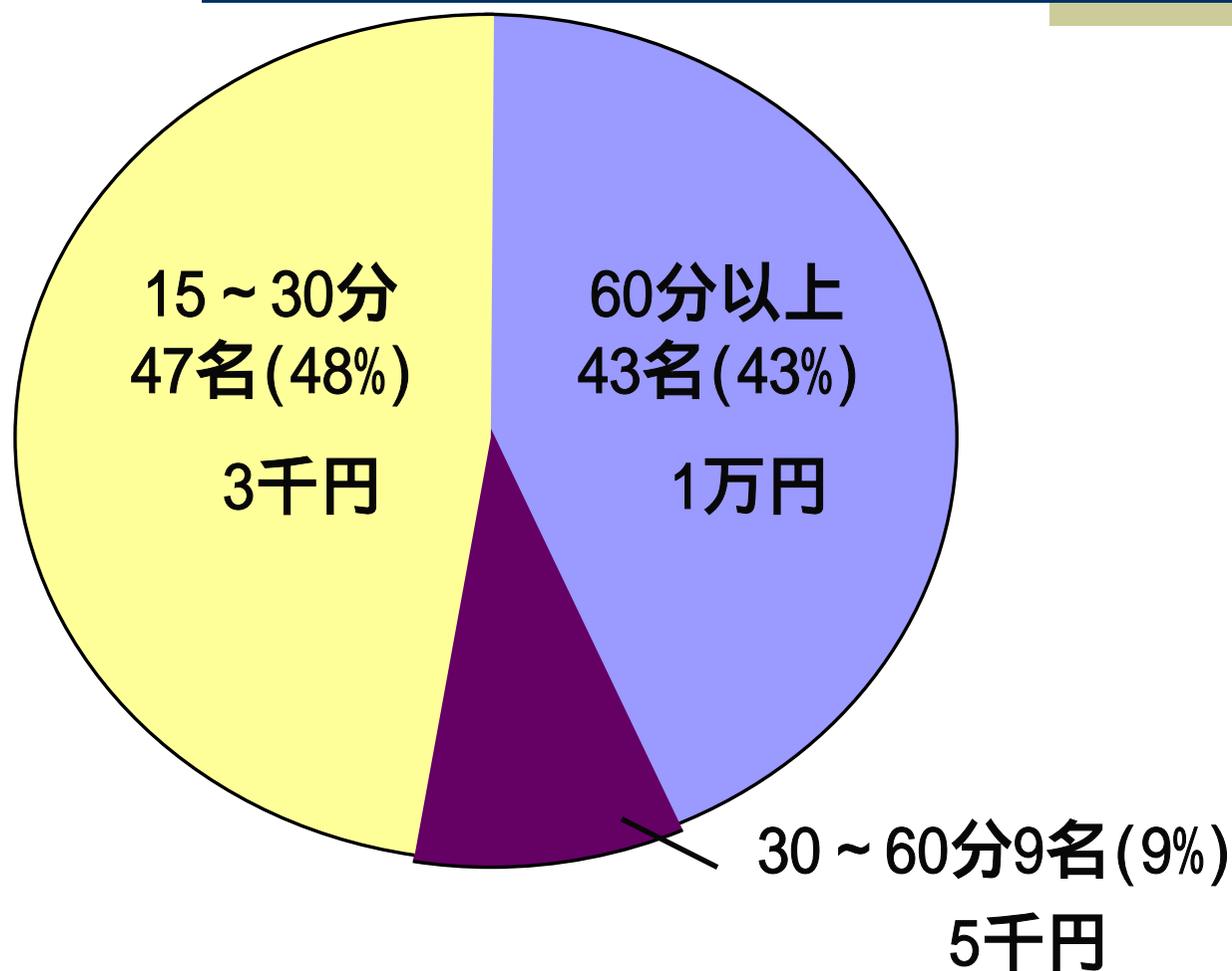
# 参加家族続柄

全体群 (N=99)



実施時間  
(料金体系含む)

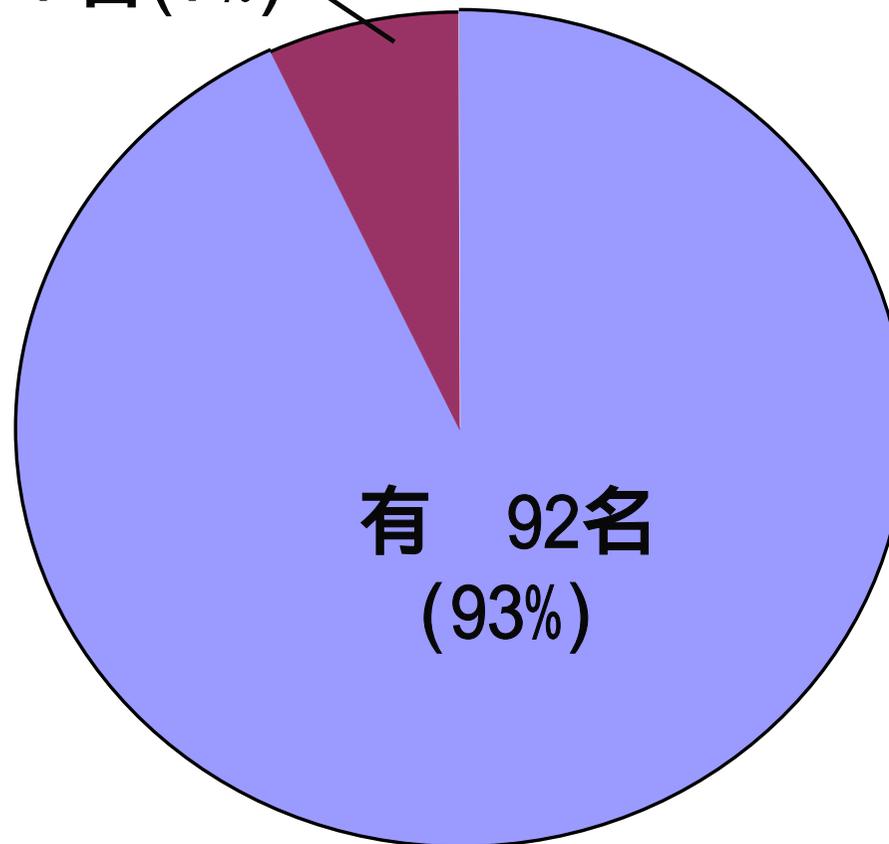
全体群 (N=99)



## スキンシップ実施の有無

全体群 (N=99)

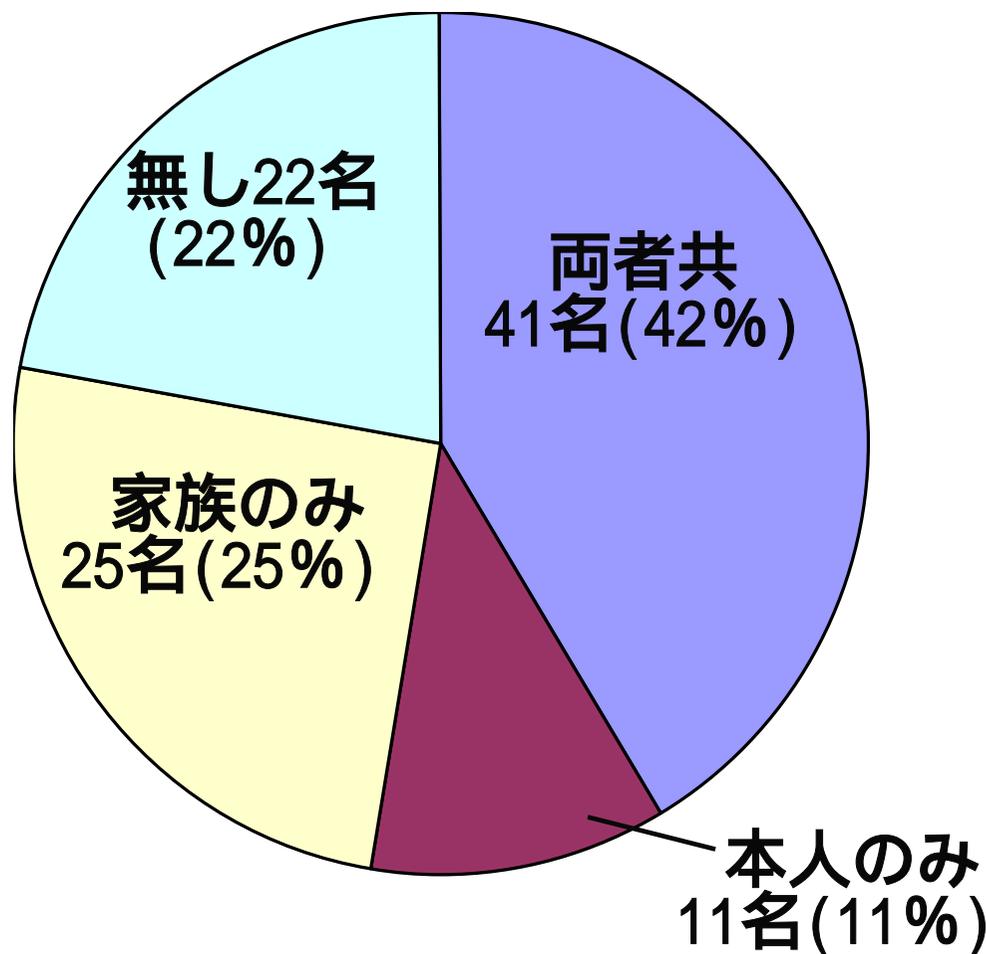
無 7名(7%)



有 92名  
(93%)

## 情動体験

全体群 (N=99)

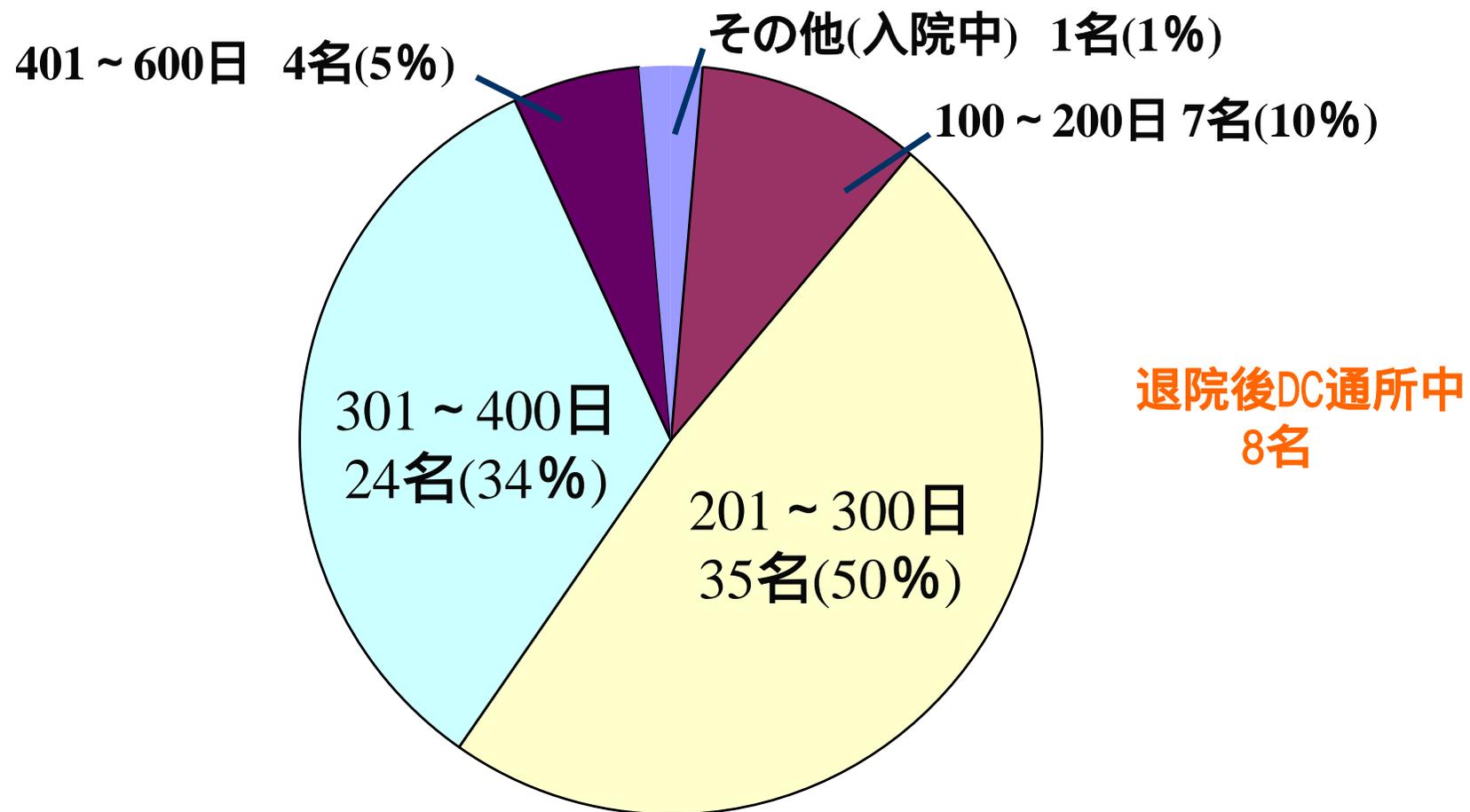


情動有  
77名(78%)

本人のみ  
11名(11%)

# 退院後の経過日数

全体群(N=99)



## 10代群感想レポート

本人

- ◆ 相手理解「家族の気持ちがわかった」など・・・63%
- ◆ 自己表出「言いたい事が言えた」など・・・43%

親

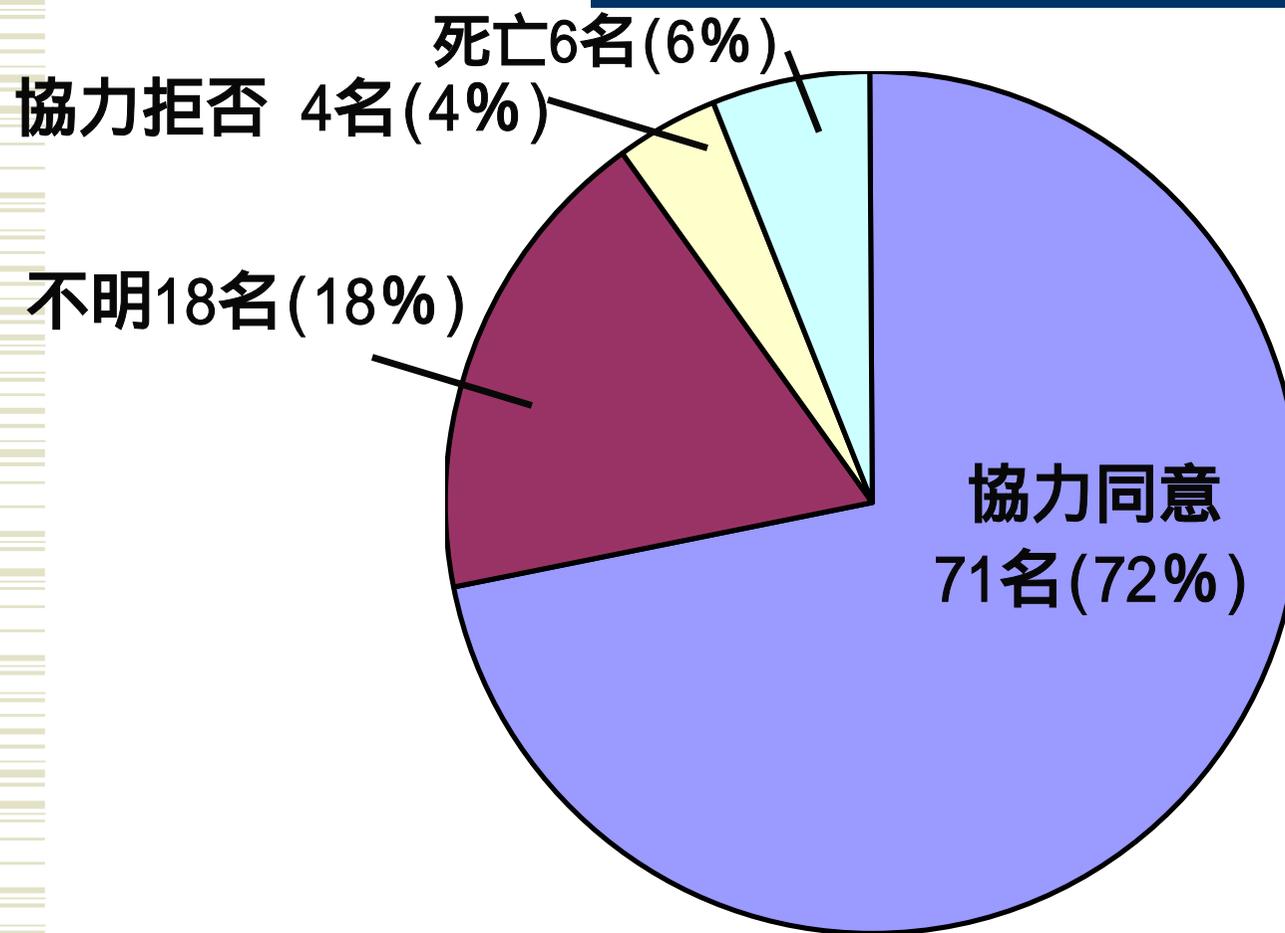
- ◆ 親子関係の直面化「親がどうあるべきか気付いた」など・・・70%
- ◆ 対話不足「今まできちんと話し合えてなかった」など・・・63%



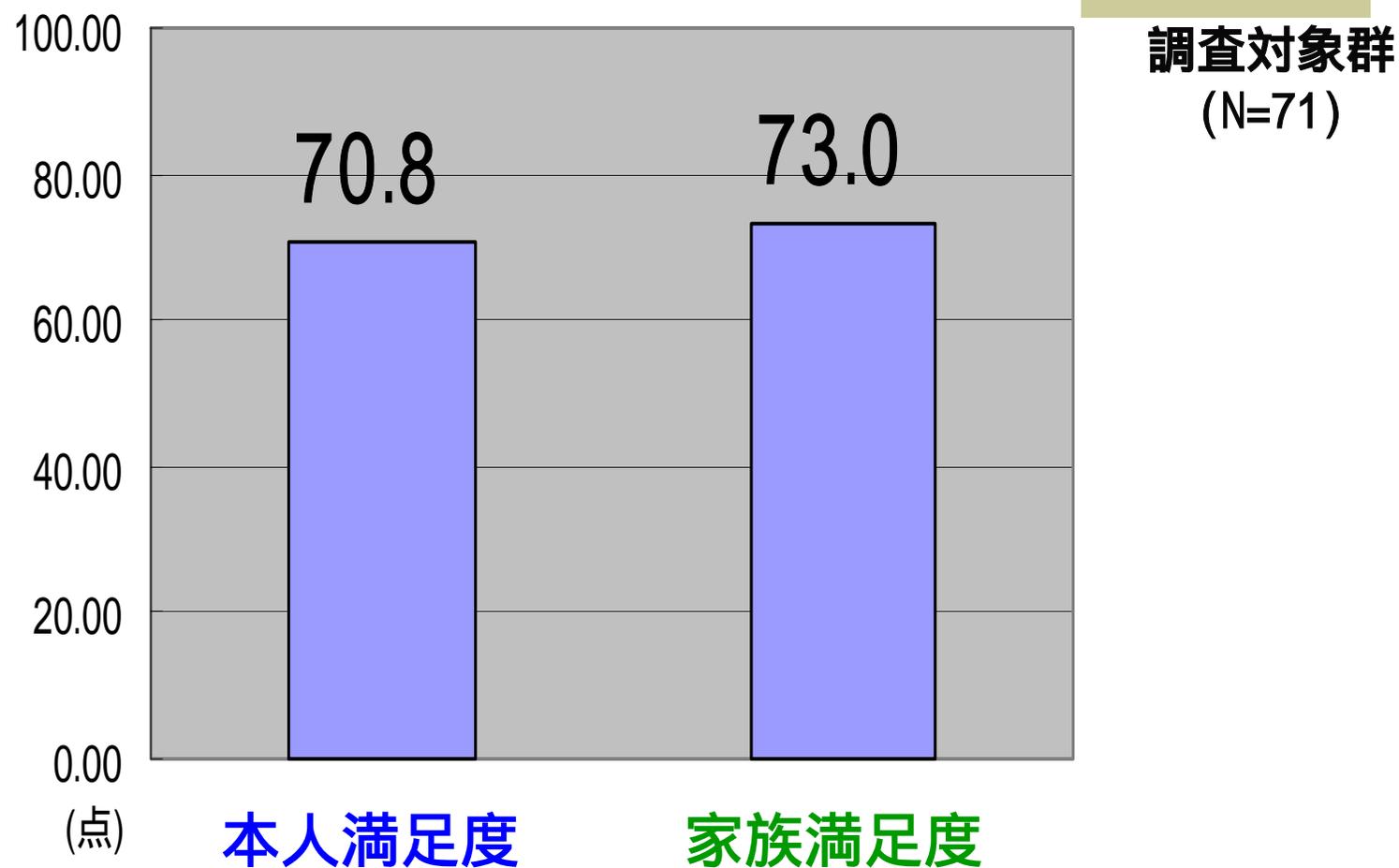


## 予後聞き取り調査結果

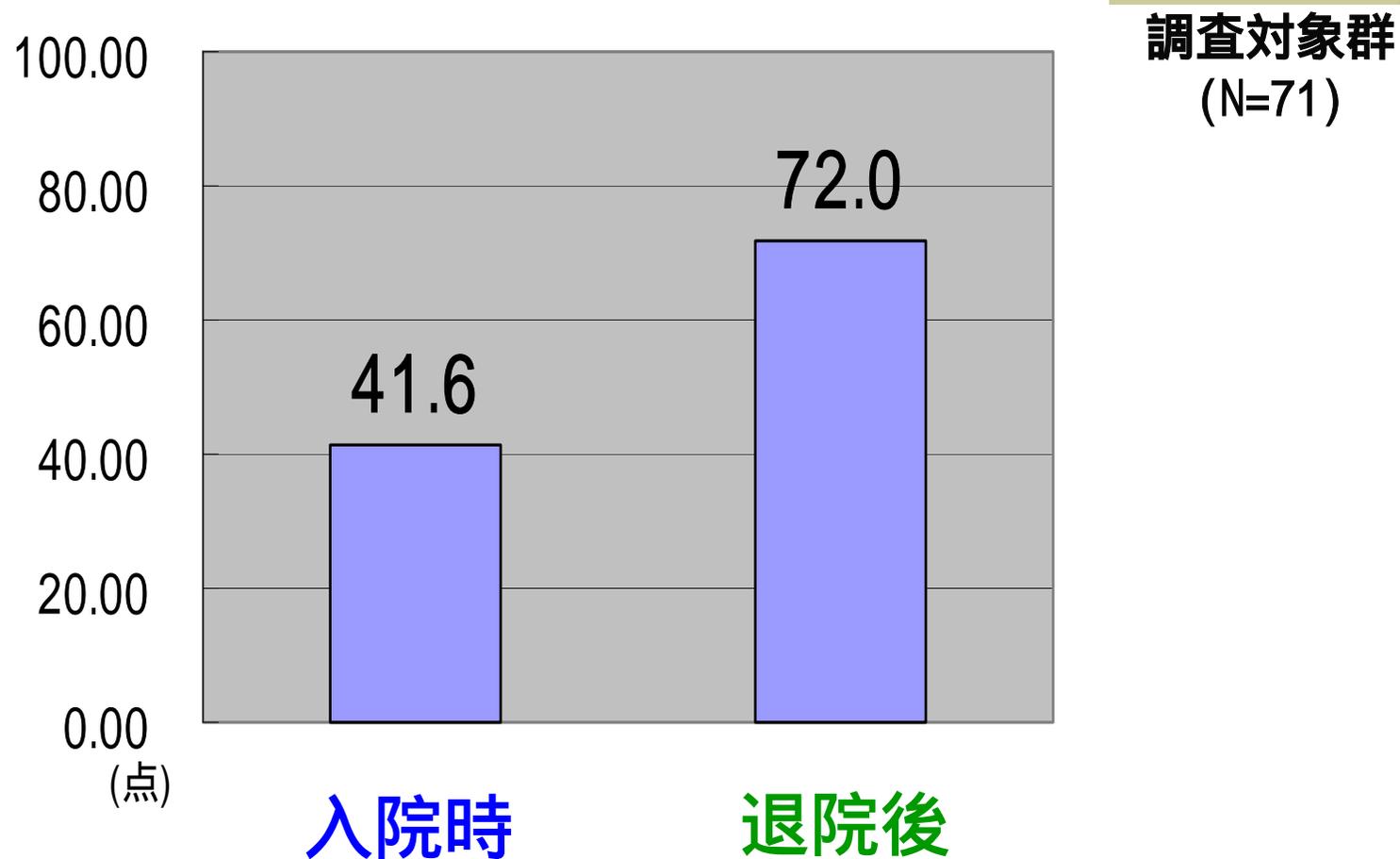
全体群(N=99)



## 本人満足度・家族満足度の比較



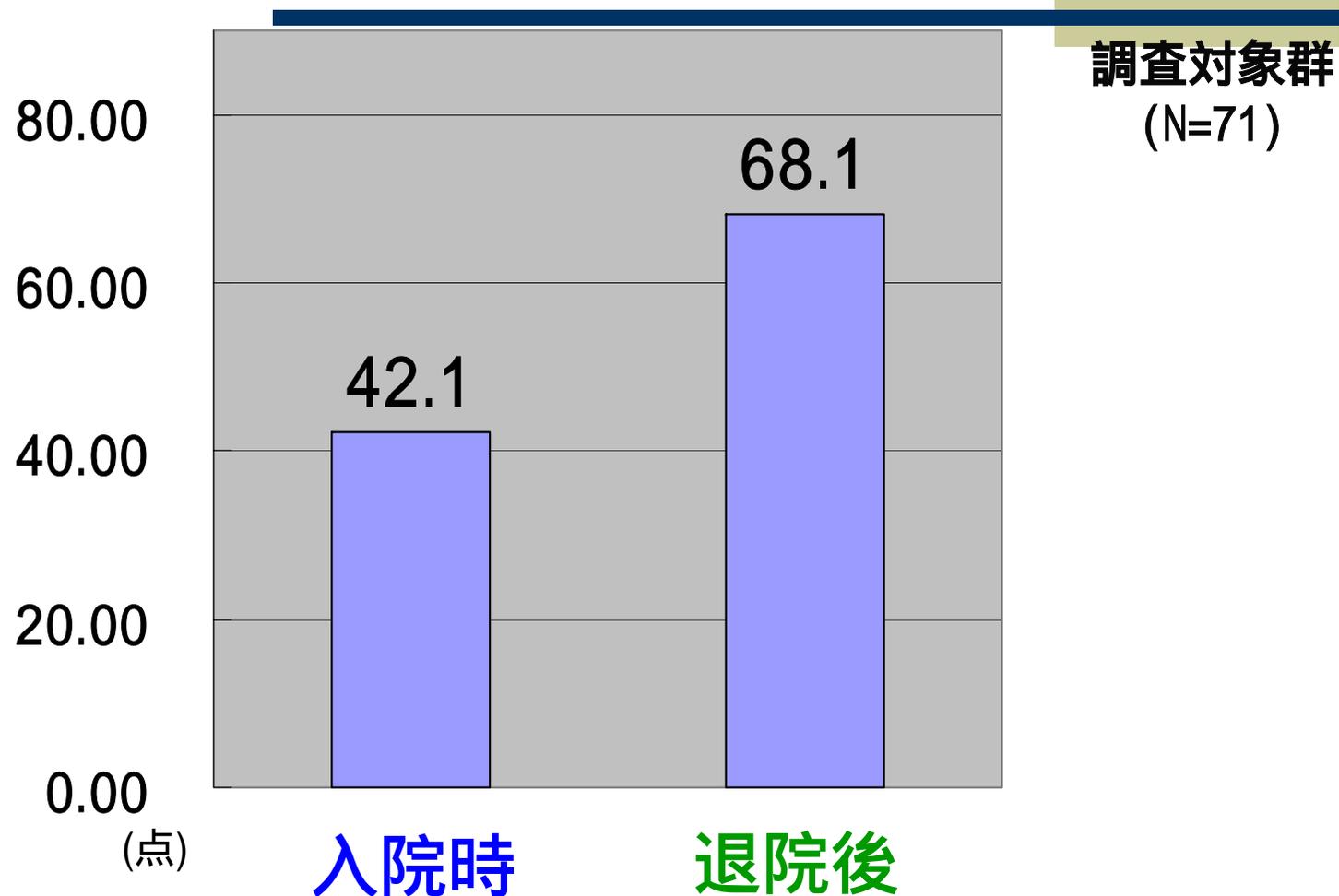
## 症状・生活状況 (GAF)尺度の比較



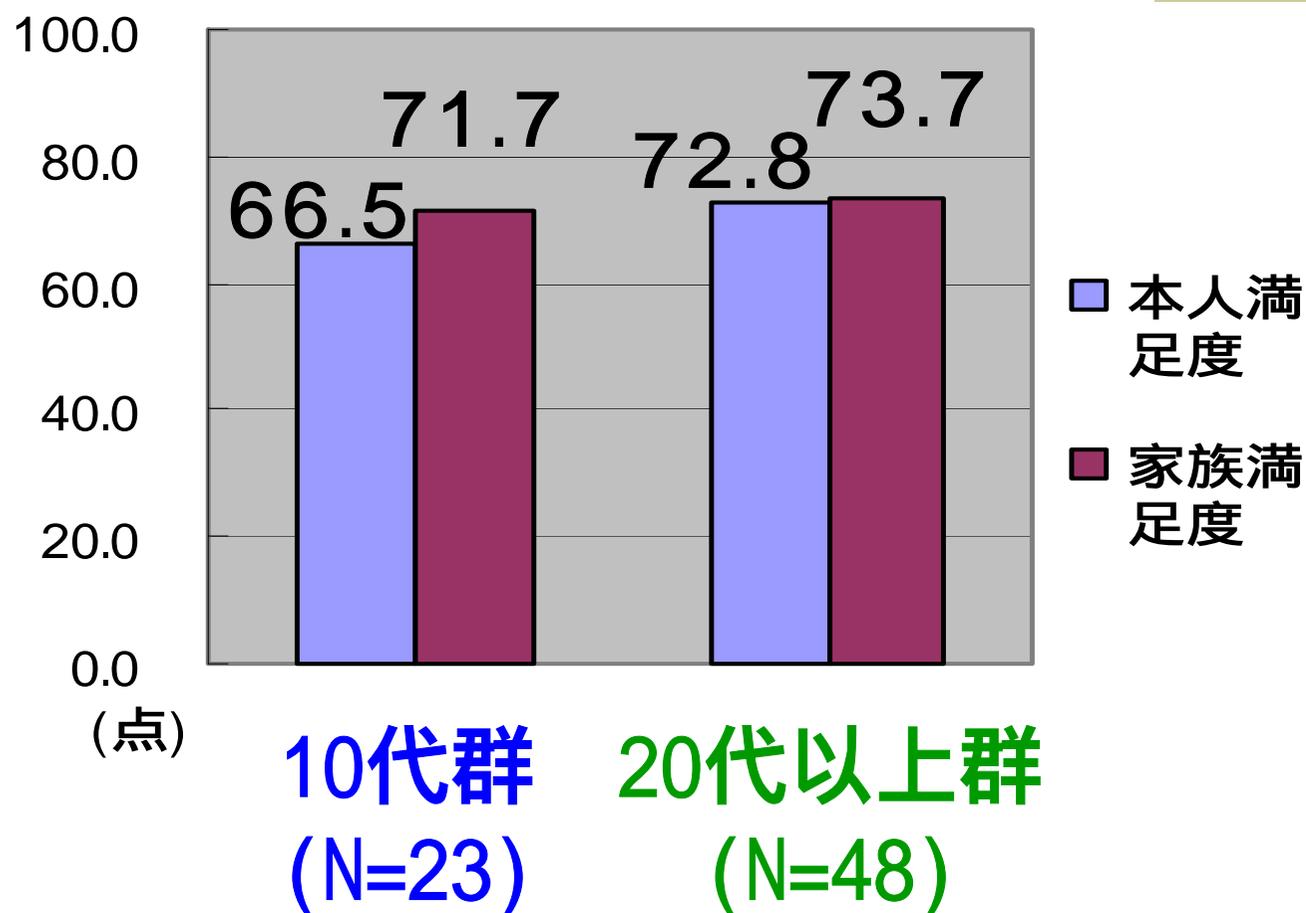
## 対人関係(GARF)尺度の比較



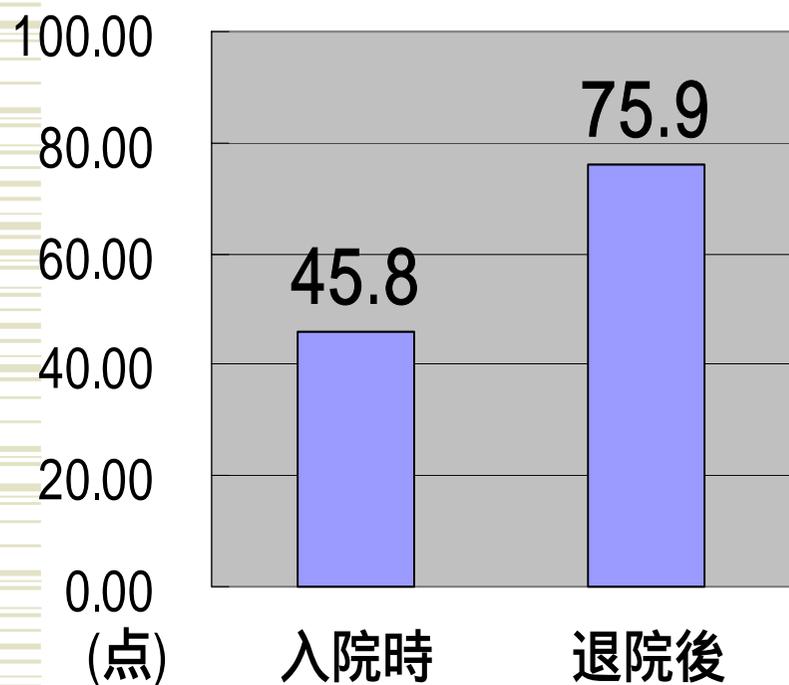
## 社会的状況(SOFAS)尺度の比較



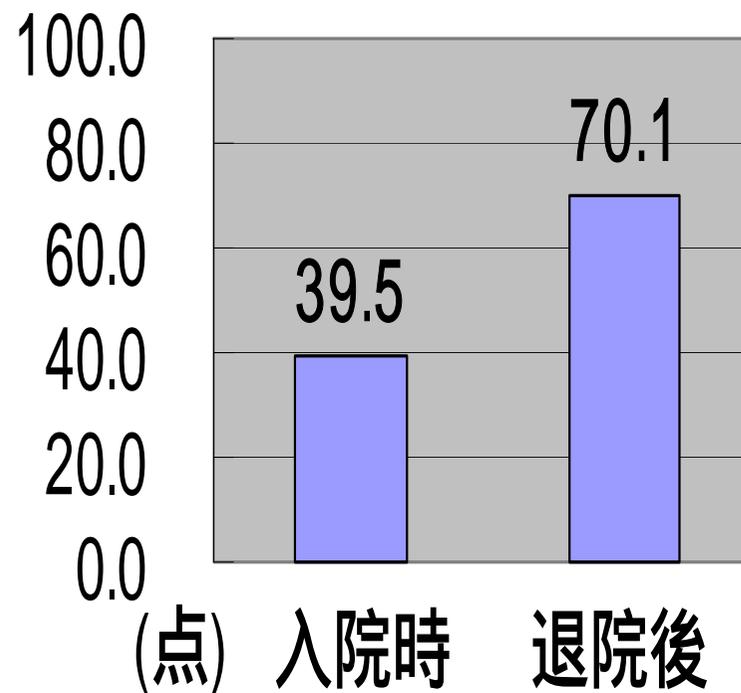
## 本人満足度・家族満足度の比較



## 症状・生活状況評定(GAF)尺度の比較

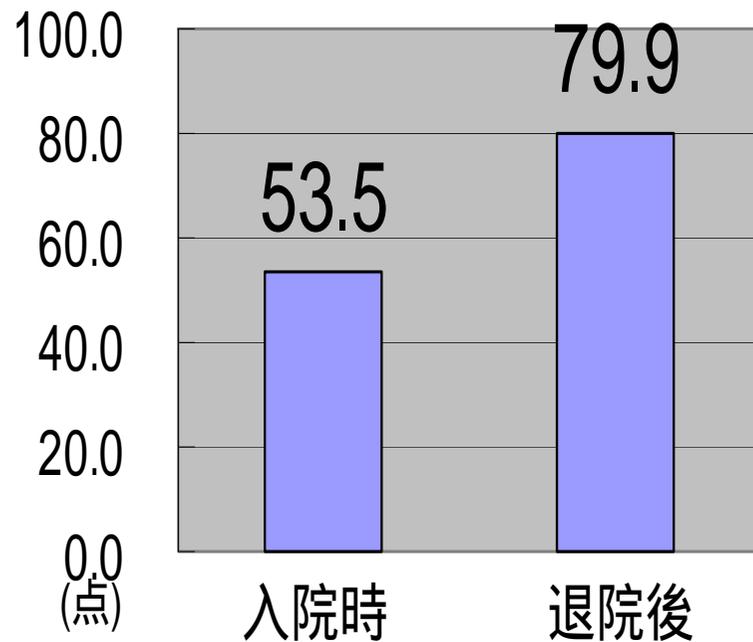


10代群 (N=23)

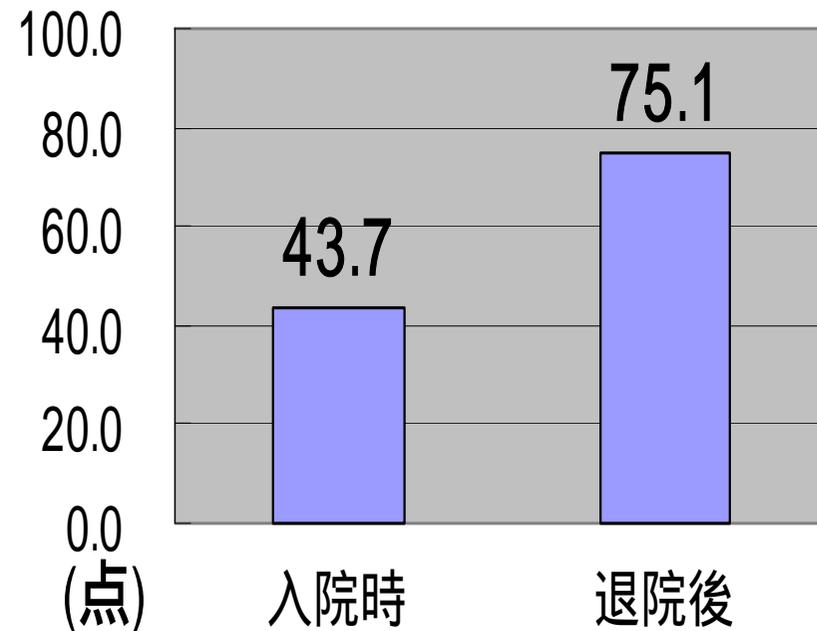


20代以上群 (N=48)

## 対人関係評定(GARF)尺度の比較

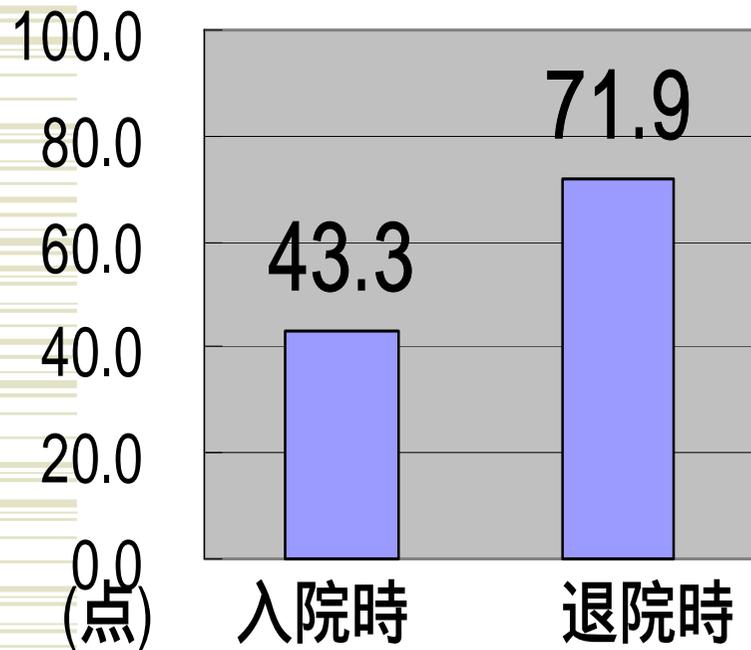


10代群 (N=23)

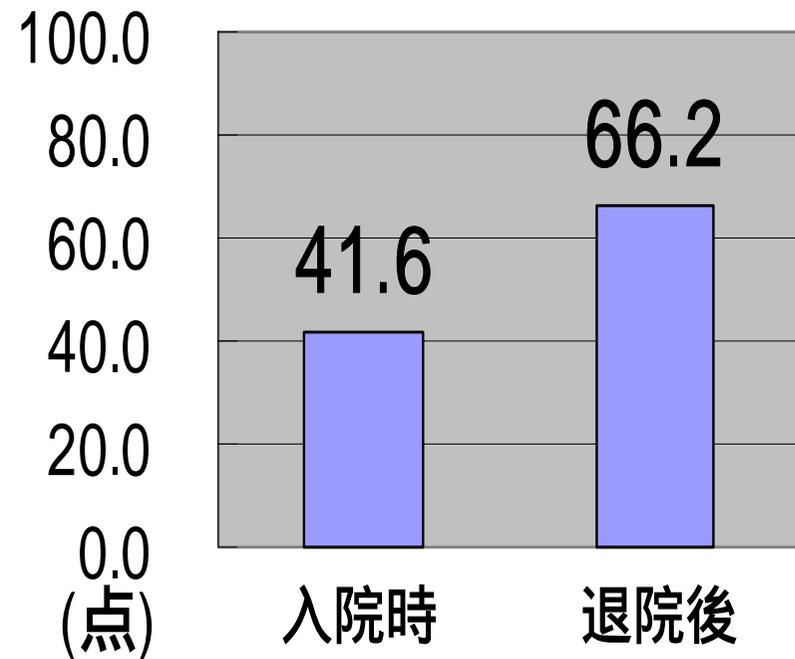


20代以上群 (N=48)

## 社会的状況評定(SOFAS)尺度の比較



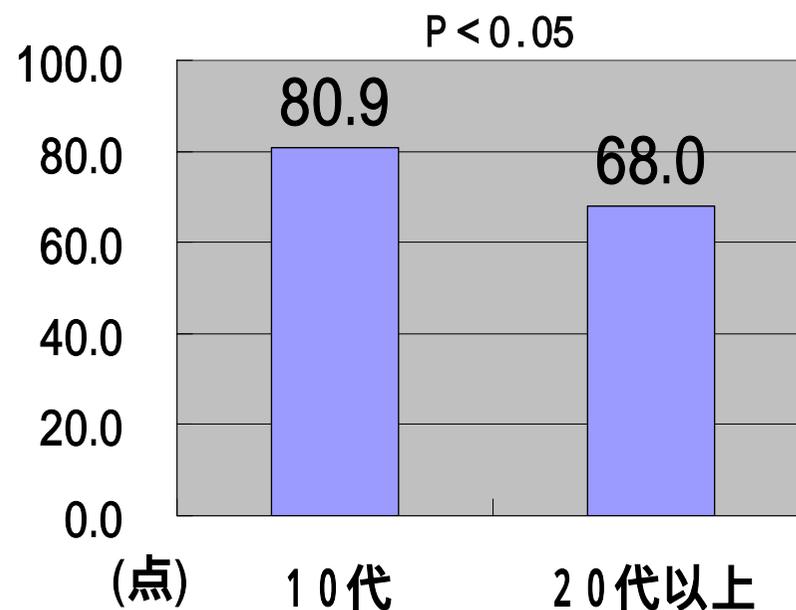
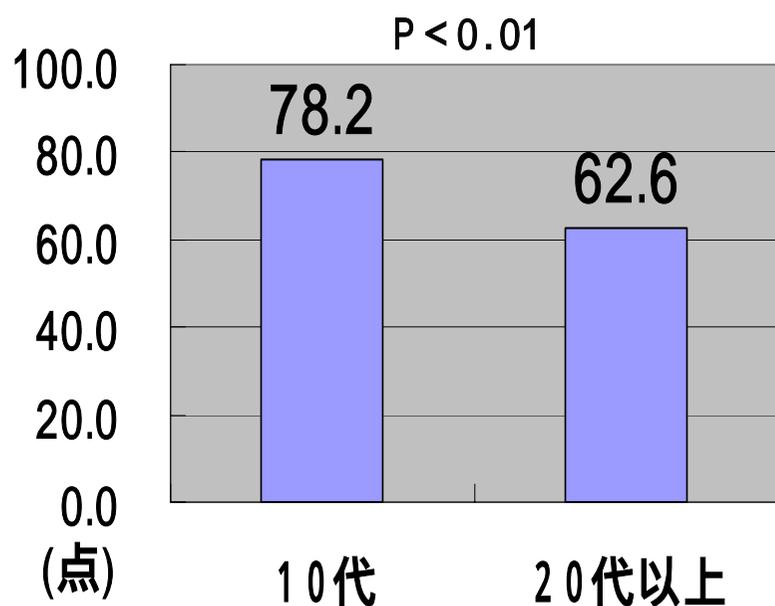
10代群 (N=23)



20代以上群 (N=48)

# 予後調査 その 10代群と20代以上群の比較

## 退院後の比較 (聞き取り対応: 家族)

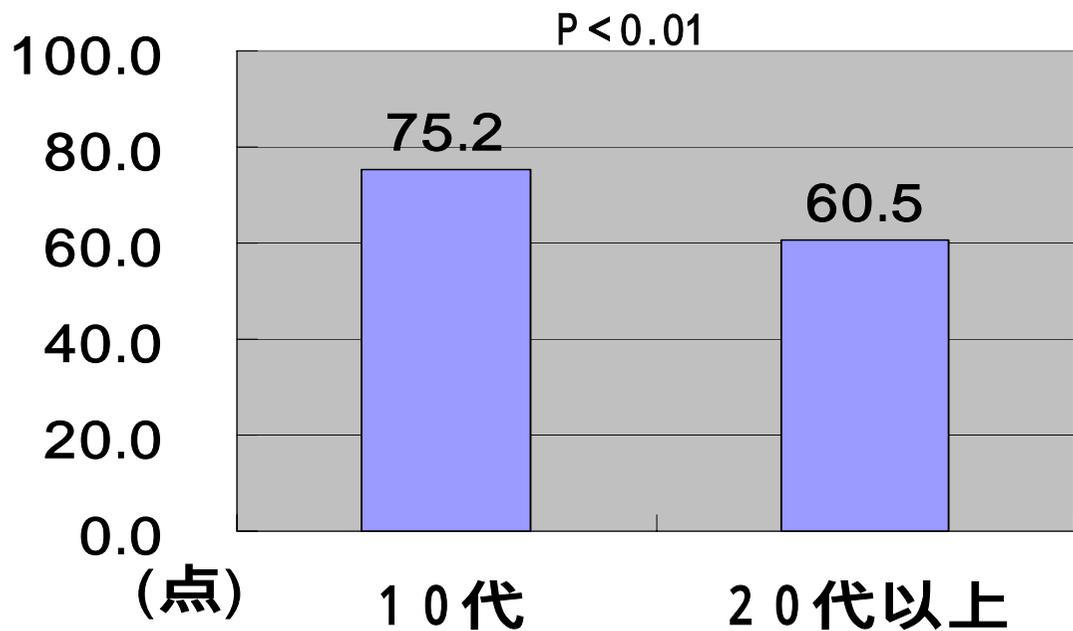


症状・生活状況(GAF)尺度

対人関係(GARF)尺度

10代群(N=23)、20代以上群(N=48)

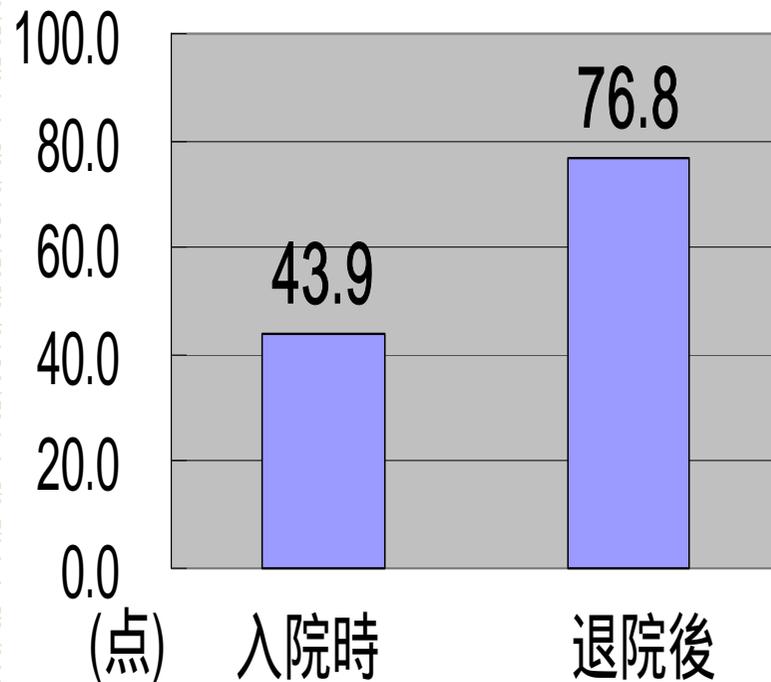
退院後の比較  
(聞き取り対応: 家族)



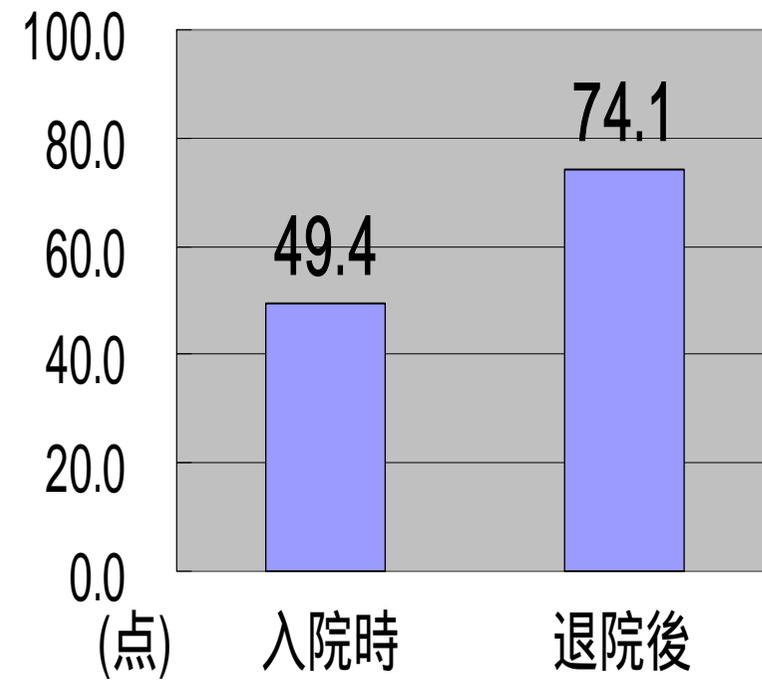
社会的状況(SOFAS)尺度

10代群(N=23)、20代以上群(N=48)

## 症状・生活状況評定(GAF)尺度の比較

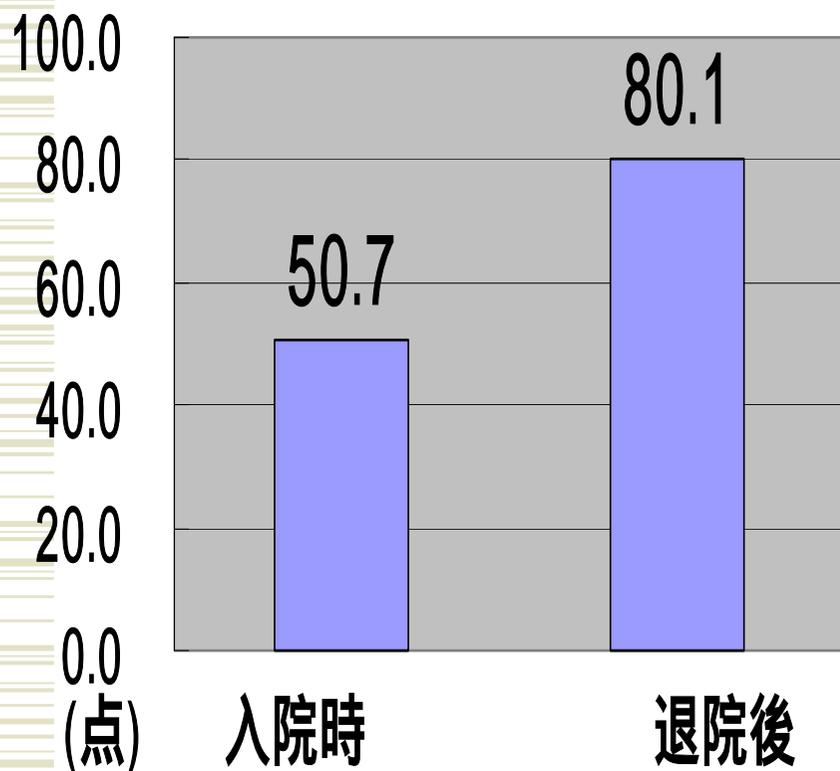


両親健在群(N=15)



片親群(N=8)

## 対人関係評定(GARF)尺度の比較

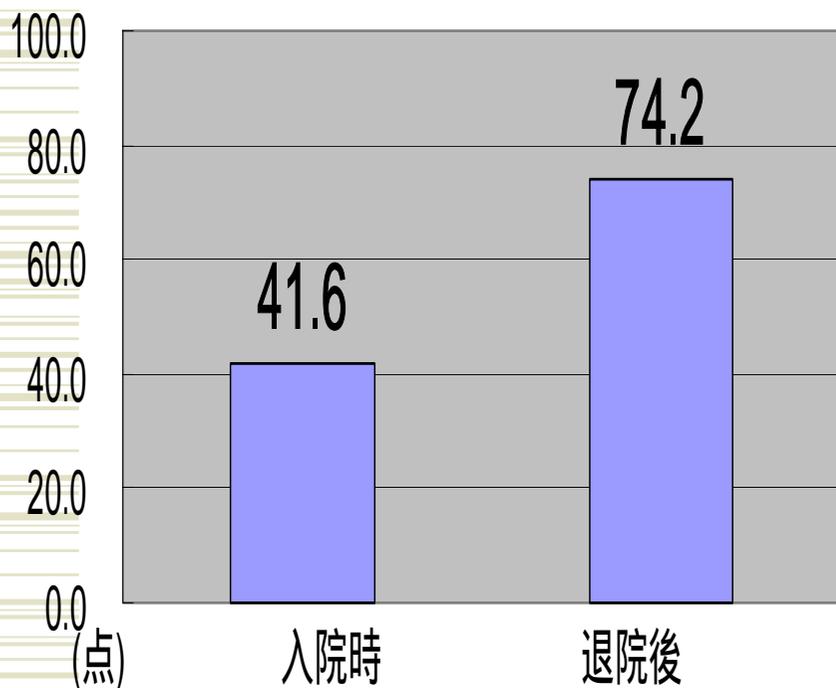


両親健在群(N=15)

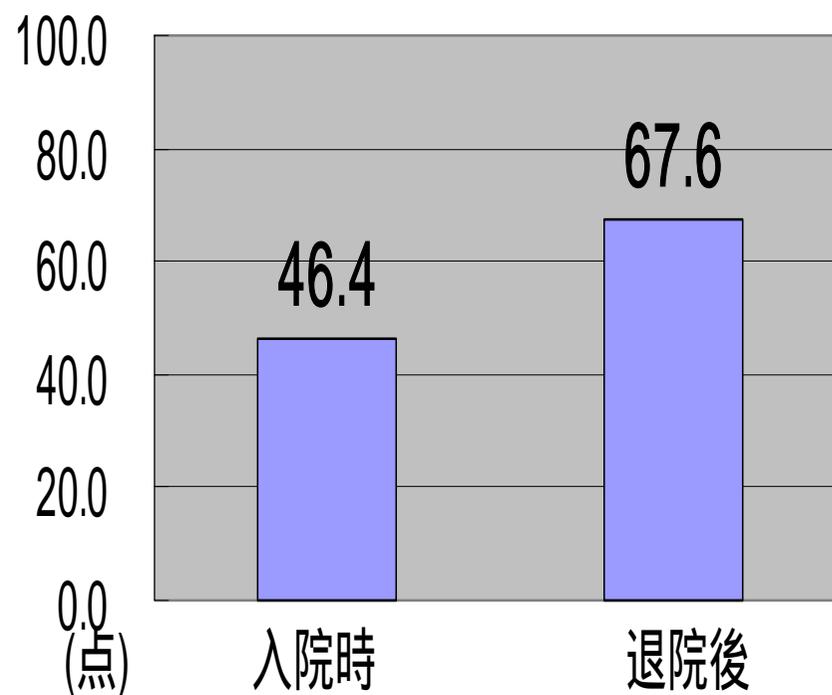


片親群(N=8)

## 社会的状況評定(SOFAS)尺度の比較

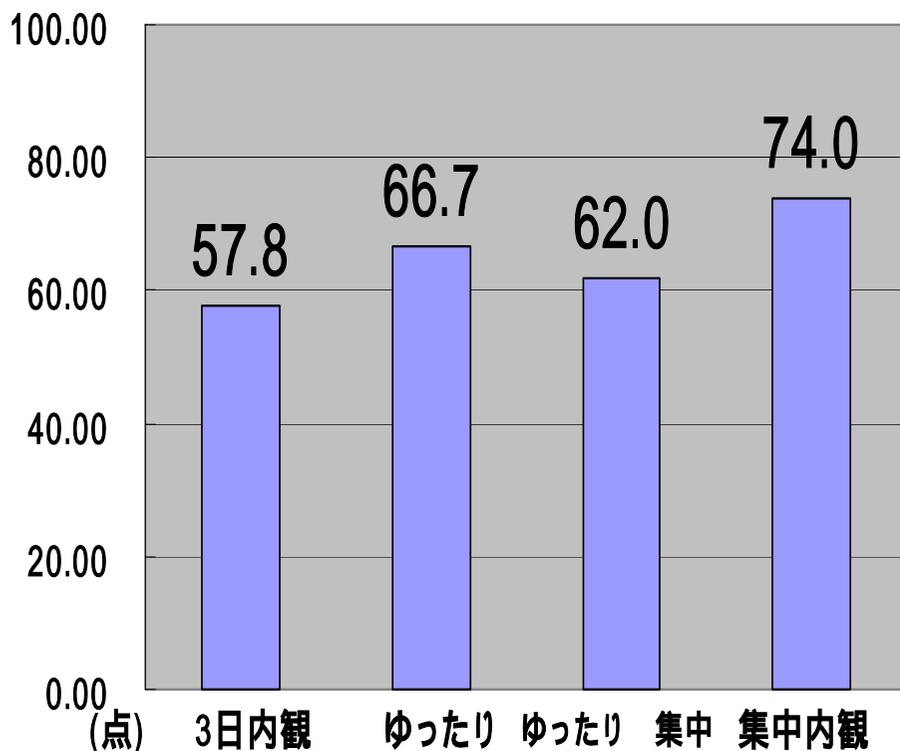


両親健在群(N=15)

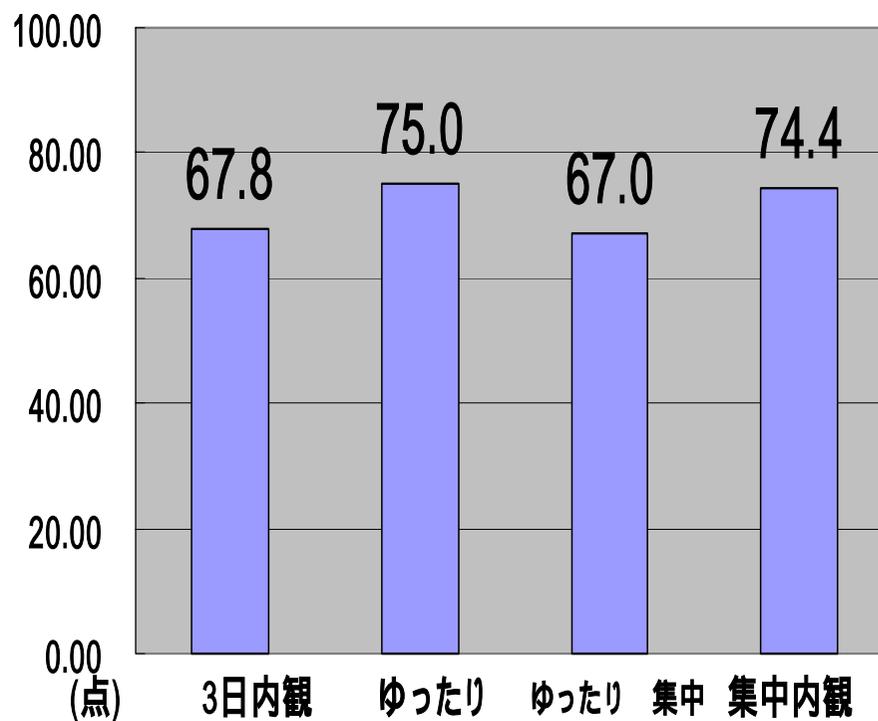


片親群(N=8)

## 本人・家族満足度の比較



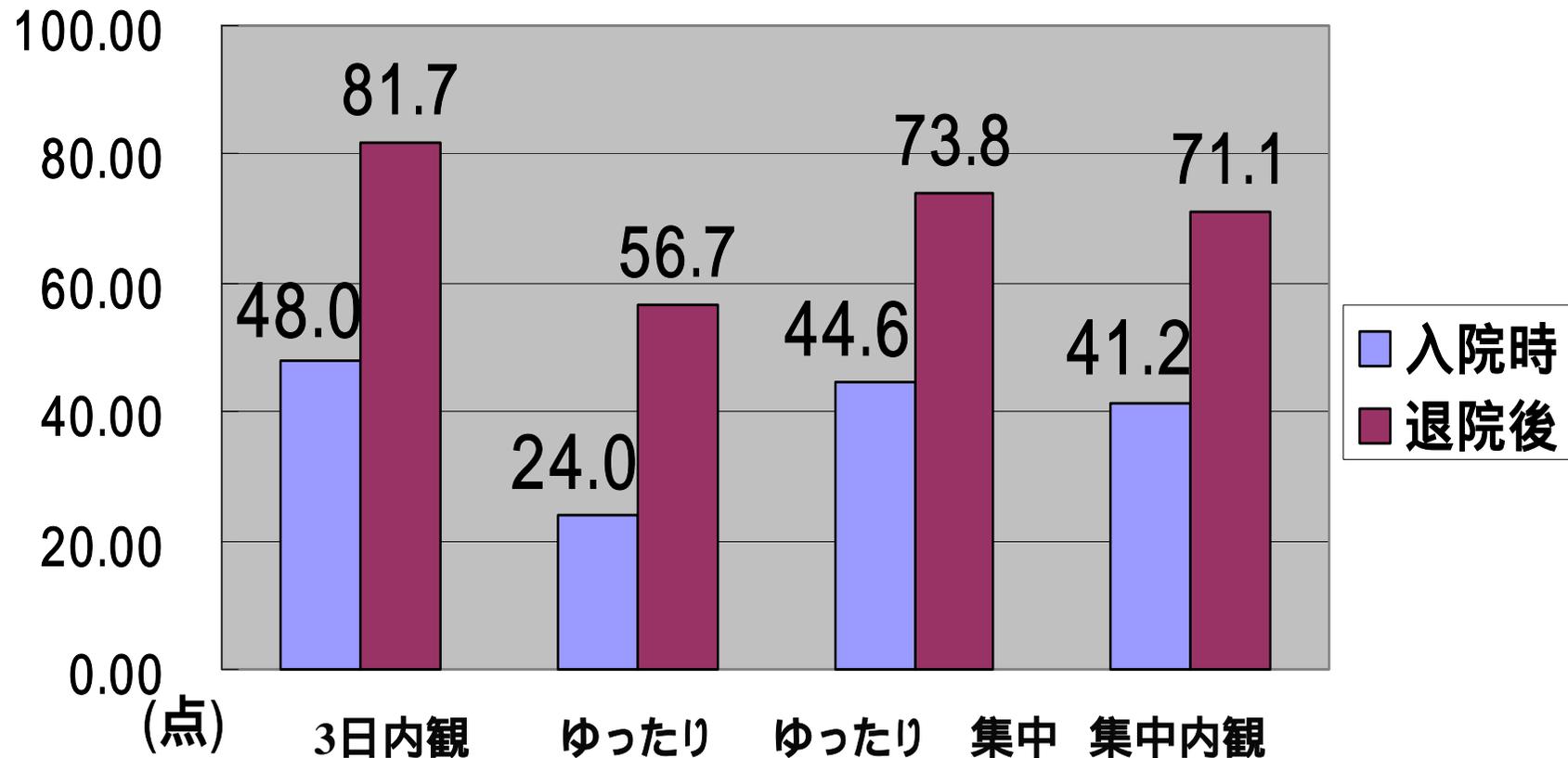
本人満足度



家族満足度

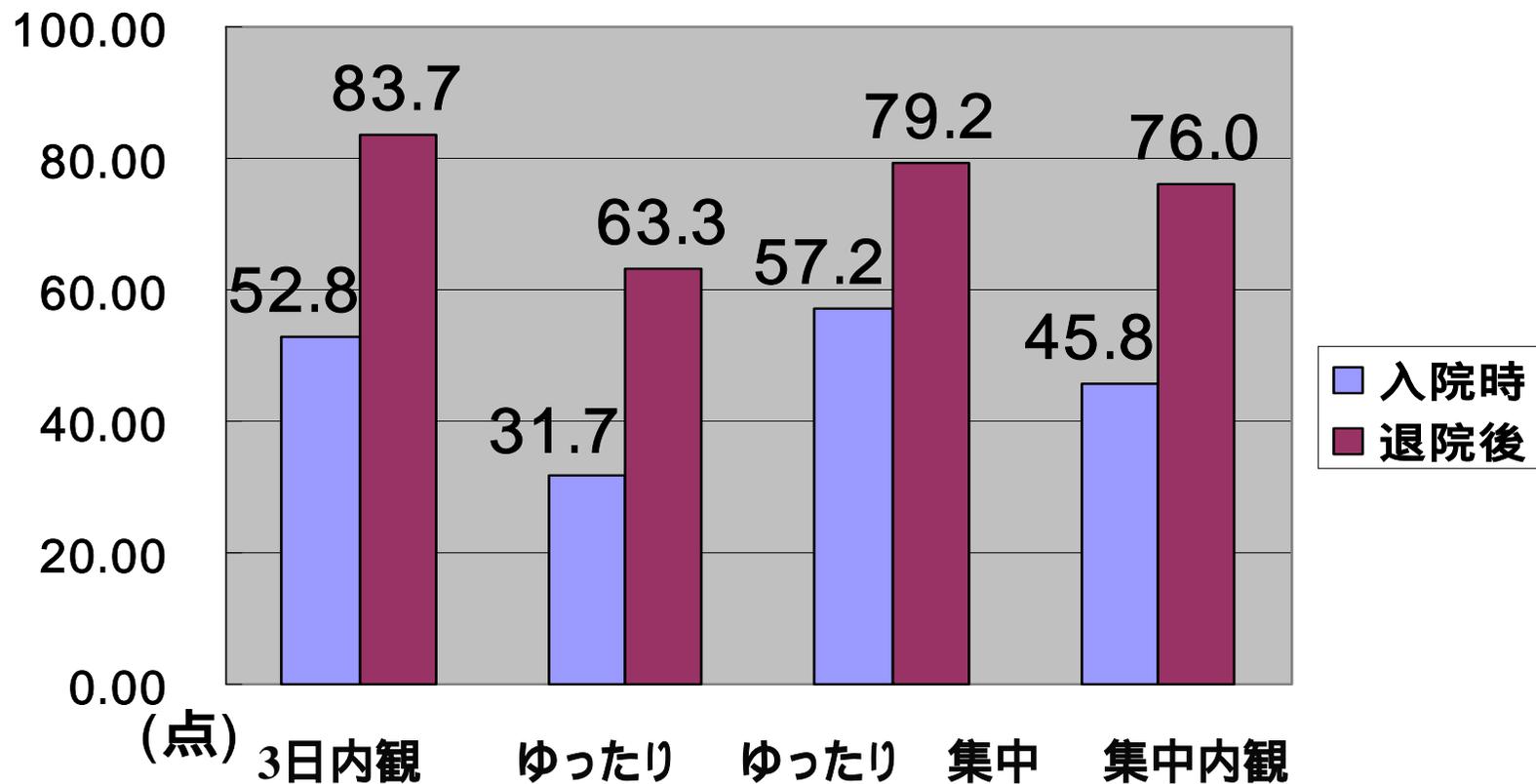
3日内観9名、ゆったり3名、ゆったりから集中5名、集中内観54名(N=71)

## 症状・生活状況評定(GAF)尺度の比較



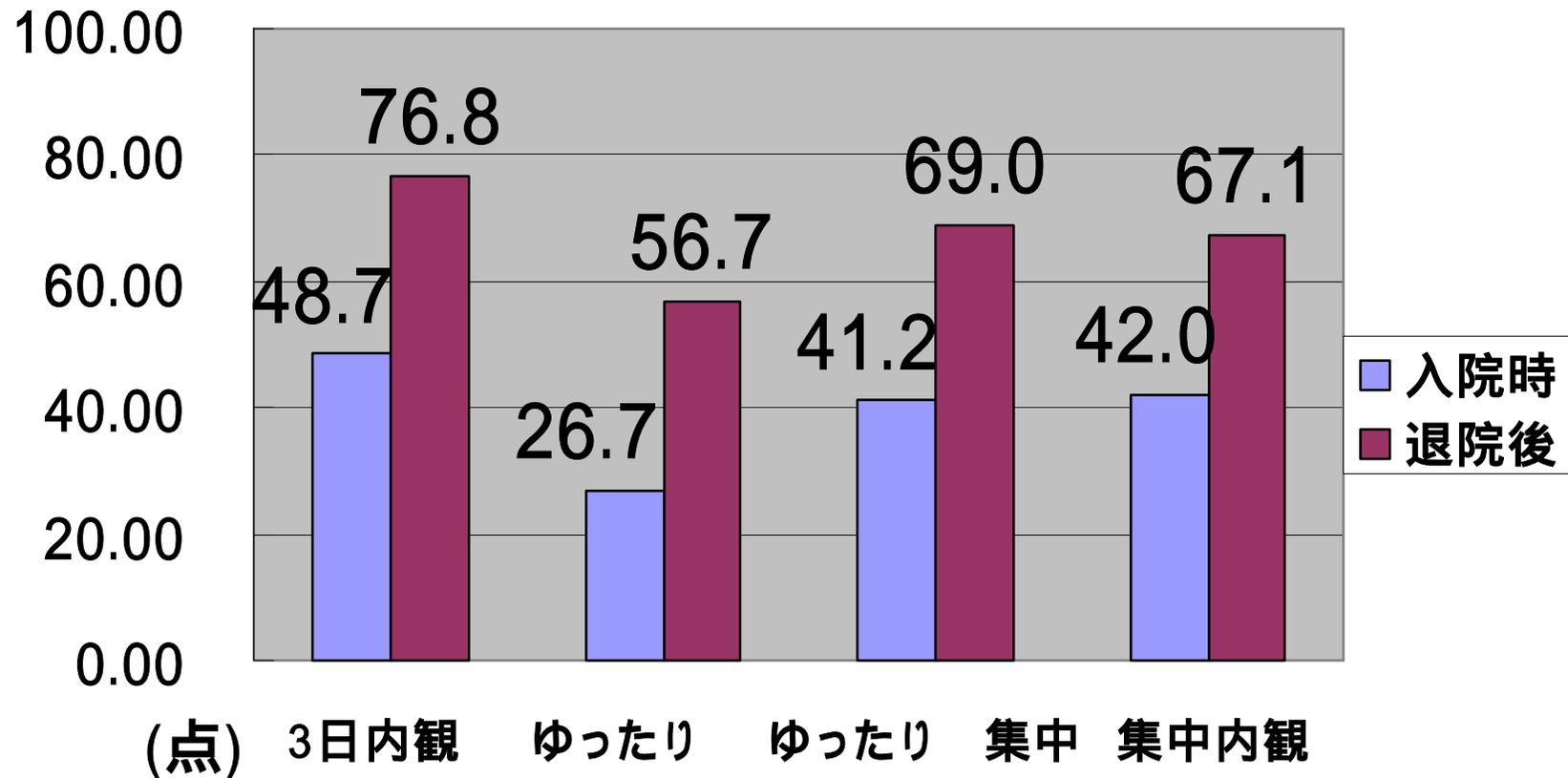
3日内観9名、ゆったり3名、ゆったりから集中5名、集中内観54名(N=71)

## 対人関係評定(GARF)尺度の比較



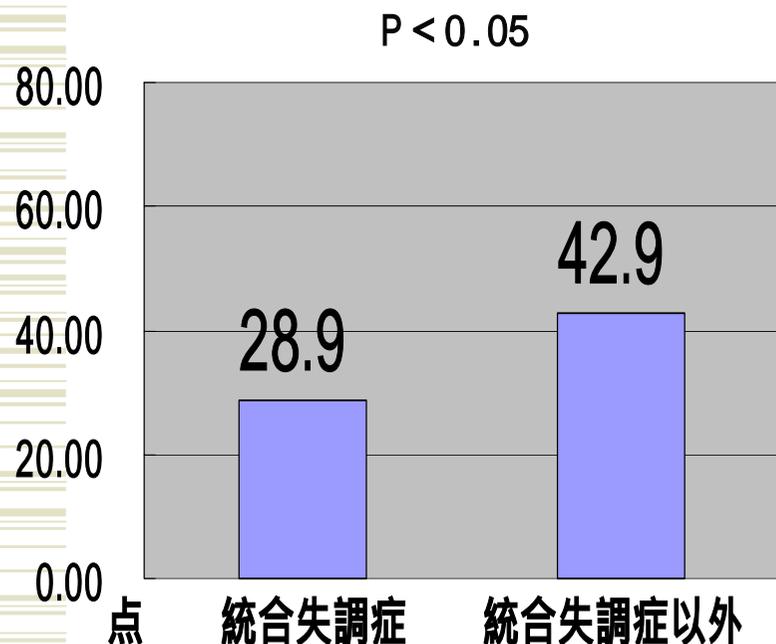
3日内観9名、ゆったり3名、ゆったりから集中5名、集中内観54名(N=71)

## 社会的状況評定(SOFAS)尺度の比較

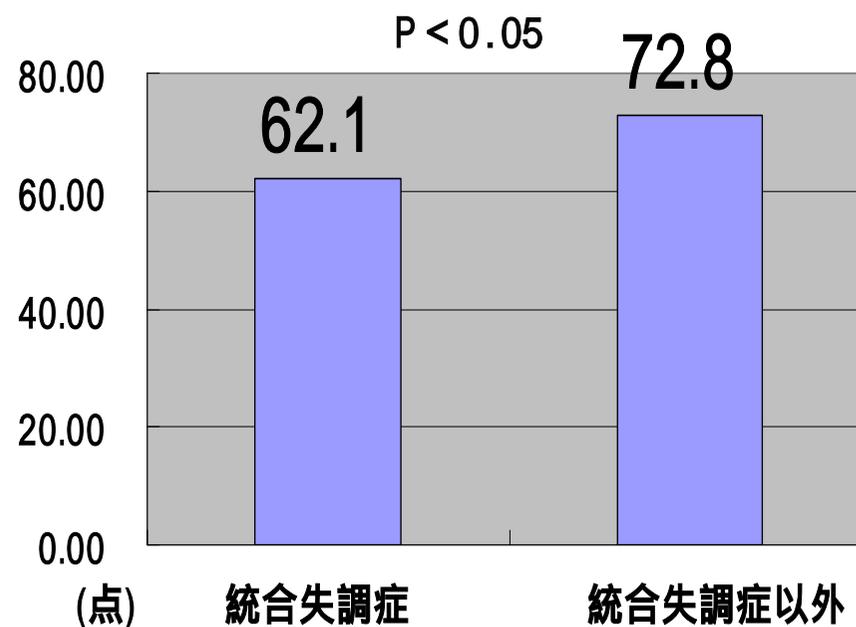


3日内観9名、ゆったり3名、ゆったりから集中5名、集中内観54名(N=71)

## 症状・生活状況評定(GAF)尺度の比較



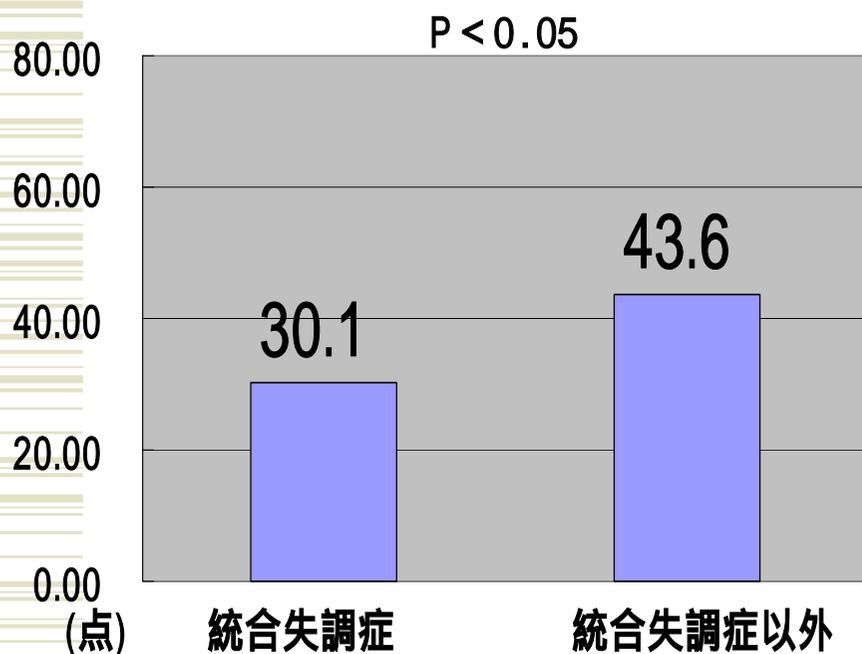
入院時



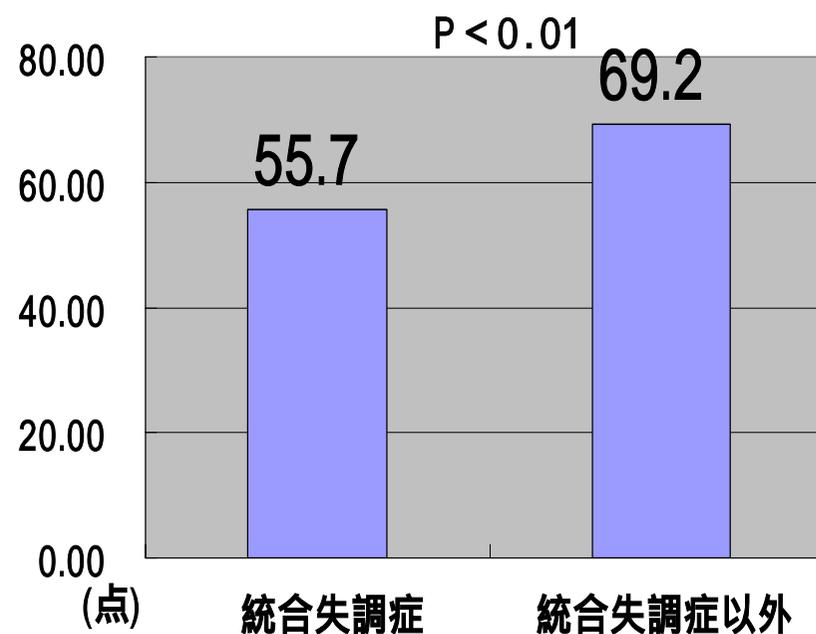
退院後

統合失調症群(N=7) 統合失調症以外(N=64)

## 社会的状況評定(SOFAS)尺度の比較



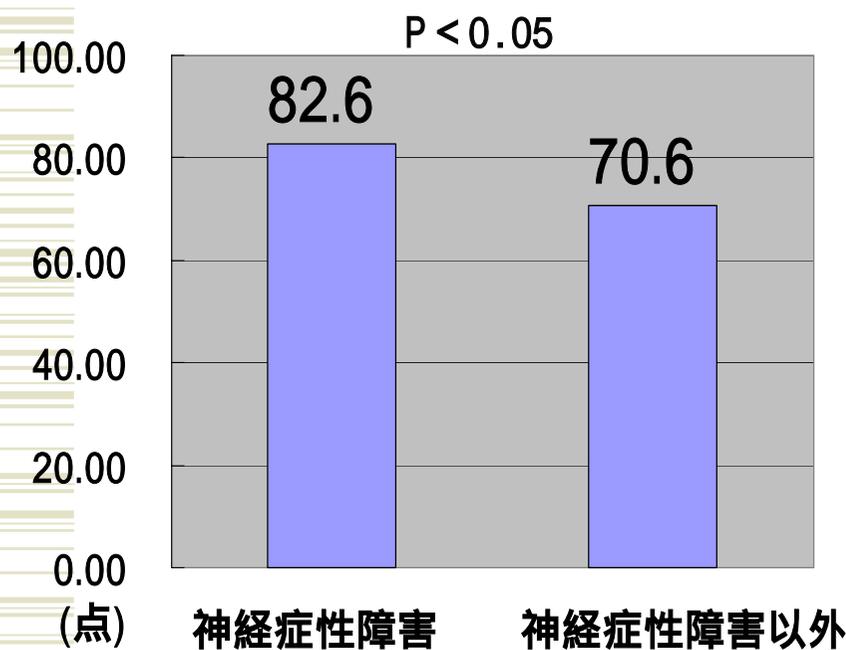
入院時



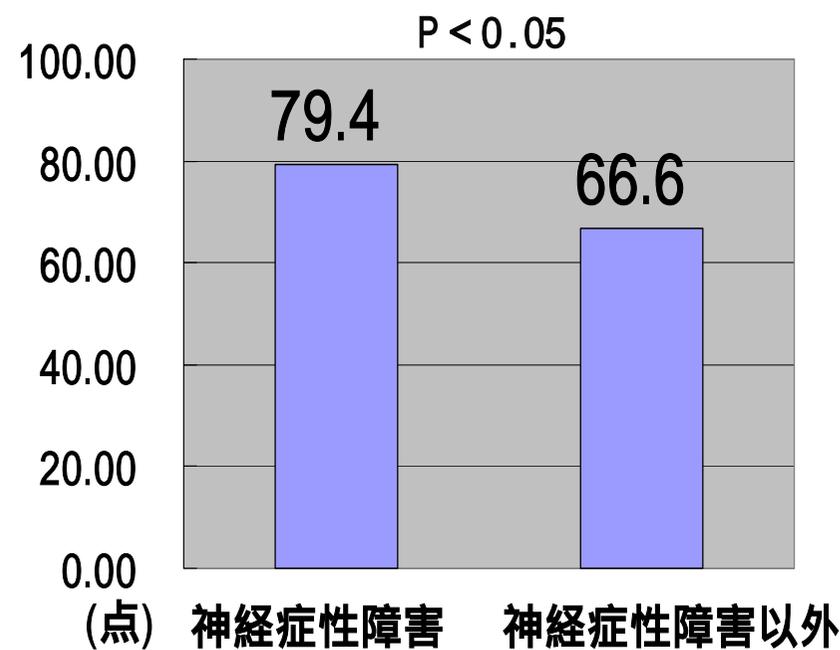
退院後

統合失調症群(N=7) 統合失調症以外(N=64)

## 退院後の2評定尺度(GAF/SOFAS)の比較



症状・生活状況(GAF)尺度



社会的状況(SOFAS)尺度

神経症性障害群(N=8) 神経症性障害以外(N=63)

# 結果と考察

- ◆10代群と20代以上群では、3項目 (GAF/GARF/SOFAS) 尺度の比較に、**有意差が認められた。**



家族関係を含めた早期対応、早期治療がその後の回復の効果を高めると考えられる。

## 結果と考察

- ◆10代の両親健在群と片親群の比較では、有意差見られず。



両親健在でも機能不全家庭が多いことが推測。  
家族役割の再認識が必要

多職種の治療介入により、理想の父母像を受療者や家族に内在化させることが重要であると考えられる。

# 結果と考察

## < 疾患別比較 >

### 統合失調症

症状や社会的状況(GAF/SOFAS)尺度評価平均点：

他の群より約22点以上低い。

### 神経症性障害

症状や社会的状況(GAF/SOFAS)尺度評価平均点：

他の群より約12点高い。

# 結果と考察

- ◆10代群と他の群の有意差から、早期の医療的介入が重要。
- ◆家族内観療法その他、作業療法、芸術療法、デイケア、十段階学習会(集団療法)を通じた、多職種による父母像の内在化が重要。

今後、家族内観療法の疾患別の有効性など、調査を継続し第2報を報告したい。